

Ⅱ 各教科編集の概要

1 国 語

1 編集の具体的方針

- (1) 1 学年を5分冊とし、各学年の第5巻を資料編とした。
資料編には「文法」、「漢字に親しもう（小学校6年生で学習した漢字）」、「学習を広げる」の内容を以下の部分を除いて掲載した。
「学習を広げる」の資料のうち「読む」は第4巻に掲載。付録のうち「1年で学習した漢字」、「2年生で学習した漢字」、「3年生で学習した漢字」、「常用漢字表」、「小学校6年生で学習した漢字」の部分削除した。
※ 「1年で学習した漢字」、「2年生で学習した漢字」、「3年生で学習した漢字」は、各教材末の「新出漢字」の箇所に分割して掲載した。
- (2) 各学年の資料編に、点字表記法の学習教材「点字の書き方」を追加した。第1学年にはその全文を、第2学年及び第3学年には「書き方の形式」以後を再録した。(資料1)
- (3) 全学年を通して、原典の教材で全文を削除したものはない。また、できるだけ原典に忠実に点字化するように配慮したが、細かい点では、次のような修正を行った。
 - ① 普通の文字の表記を点字化するにあたっては、点字表記の特性を踏まえて、可能な範囲で対応措置を図った。
 - ② 表・図・グラフ等は、点字表記の可能性と生徒の理解度を考慮して、修正したり、削除したりしたものがある。したがって、指導の際には、適切な補助教材で読解を助けるように配慮することが大切である。
 - ③ 文字の形、漢字の部首等の教材は、生徒の理解度を考慮して、修正を加えた上で必要に応じて点線文字で掲載した。
 - ④ 地図は、内容を読み取る上で不可欠なものに限り、修正を加えた上で、点図で掲載した。
 - ⑤ 「右の」、「左記の」、「上の」、「下の」などの表現をそれぞれ「これらの」、「下記の」、「前の」、「後の」などの表現に修正した。
 - ⑥ 「注」は原則として、見開き2ページ分を奇数ページ末に掲載した。
 - ⑦ 「注意する語句」は、見開き2ページ分を偶数ページ末に掲載した。
 - ⑧ 記号等の修正は、読解を助ける場合に限って行い、原則として原典通りとした。
- (4) 各学年の巻頭にある「学習の計画を立てよう」は、内容を分冊ごとに分け、それぞれの巻頭にまとめて掲載した。
◇ 「学習の内容」にある太字は第1カギで囲んで示し、「学習の目標・内容」の欄から、□の部分削除した。
- (5) 「この教科書で学習するみなさんへ」は、特に次のような修正を行った上で、分冊ごとに掲載した。(資料2)
マーク類は原則削除し、マークを言語化して示した上で、「CDなどを利用する学習を示している。」の部分削除した。また、最後に「原典ページを利用しよう」と見出しを加え、以下のように説明を加えた。
- (6) 教材の初めに、・印で示された内容は、第1星印を付けて示した。
- (7) 各教材末の「新出漢字」は、文中の語句（活用語の場合は切れ続きを基準にする）を抜き出して音訓と共に示し、「付録」の用例の順に掲載した。また、漢字の訓を示す場合、送り仮名は第2つなぎ符を用いて示した。
〔原典 第1学年 14ページの例〕
「か」けよる（く□か^ニける□か^ニる）□□「く」し□□せん「く」。
- (8) 各教材末の「新出音訓」は、第1カギで示し、既習の音訓を第1カッコで示した。
〔原典 第1学年 20ページの例〕
て「さ」げ（てい）
- (9) 古典教材は、次のように点訳した。
 - ① 和語は歴史的仮名遣い、漢語は現代語の表記で点訳した。ただし、原典において、漢語に歴史的仮名遣いによる振り仮名がつけられている場合は、欄外の偶数ページの注にその振り仮名

を掲載した。

② 本文中の歴史的仮名遣いの読み方は、該当する語句に第1カッコをつけて示した。

③ 原典で古文と現代文とが上下対照に掲載されている教材は、点字教科書でも同様の割付をした。

④ 漢詩・漢文の表記は、書き下し文を掲載した。また、「漢文を読む」の教材で漢文の原典の書き表し方を説明するために、点線文字で表した。

(10) 表現課題などで字数制限があるものについては、一応の目安として、普通文字200字を点字32マス11行と対応させた。

「例」400字（原典） → 400字（点字32マス22行）

(11) 「漢字」は、字形に関するものは生徒の理解度を考慮して修正を加え、必要に応じて点線文字で示した。同音異義語や同訓異字については、漢字を音と訓とで併記するか、または同様の意味をもつ別の熟語を示した。その際、漢字の音訓は、原典付録「常用漢字表」によった。

2 編集の具体的内容

学年	ページ	行	修正事項	修正内容	備考	
1年	19	下4	修正	「。」(句点)や「、」(読点)→句点(。)や読点(、)	点字の特性を考慮して。	
	26	上6	削除 修正	イラストは削除し、それぞれ(話し言葉の例)、(書き言葉の例)とする。全体は枠で囲む。	盲生徒の実態に即して。	
	27	上7	補足		「革一川」「市立一私立」「科学一化学」(資料3)	点字の特性を考慮して。
		上12	補足		「市立」か「私立」(資料4)	
		上13	削除		「市立」「私立」	盲生徒の実態に即して。
		上15	補足		書き言葉→普通の文字の「書き言葉」	盲生徒の実態に即して。
	28~29	上1	修正		漢字1(資料5)	盲生徒の実態に即して。
	31	下	修正		下表は枠で囲み、縦組みにして6行目の後に挿入。話題の例は枠で囲み、15行目の後に挿入。	点字の特性を考慮して。
			修正		大きな文字で書く→読みやすい文字で書く	点字の特性を考慮して。
		下	修正		スピーチの構成例は枠で囲み、4行目の後に挿入。 ★は第1星印で示す。	点字の特性を考慮して。
	33~34	下9~9	修正 修正		学習の窓は第1カッコを付け、8行目の後に挿入。本文は脚注欄は見開きで組み、本文の位置に合わせて書く。	点字の特性を考慮して。
	36	4	修正		左の→該当ページに修正。	盲生徒の実態に即して。
		5	修正		白い部分→左下の図を見てみよう。このように中の部分を	点字の特性を考慮して。
		7	修正		黒い→周りの	点字の特性を考慮して。
		8	修正		黒い→右下の図の、周りの	点字の特性を考慮して。
		10	修正		白い→中の	点字の特性を考慮して。
	37	2	削除		目から	盲生徒の実態に即して。
		13	修正		上の図の場合はどうであろうか。→ここに1枚の図がある。	点字の特性を考慮して。
	38	6	修正		左の図を見てみよう。化粧台の前に座っている女性の絵が見えるであろう。→別の図がある。化粧台の前に座っている女性の絵である。	盲生徒の実態に即して。
	36~38	欄外	修正		欄外の学習は、第1カギを付け著者の後に挿入。考えようは第1カギを付け、見出しとし、各項目には1.~4.と番号を付ける。	点字の特性を考慮して。
	46	上2	修正		文は1マスあけで書く。	点字の特性を考慮して。
		上6	修正		「。」(句点)→句点(。)	点字の特性を考慮して。
		上13~15	修正		各文は、原典の「/」でのみマスあけをして書く。	点字の特性を考慮して。
下2		修正		②に書きこんでみよう→(2)として書いてみよう。	点字の特性を考慮して。	
下4		削除		②の空所部分は削除	点字の特性を考慮して。	
下		修正		×印の「ペ/ンキ」は削除。吹き出し部分は、(ヒント)として書き表す。	盲生徒の実態に即して。	
47		修正		漢字2(資料6)	盲生徒の実態に即して。	
49	上11	修正		下の→次の	点字の特性を考慮して。	
50	上3	修正		左の→次の	点字の特性を考慮して。	
	下	補足		左下表の「+」記号は削除し、(追加する情報)という言葉に代える。	盲生徒に実態に即して。	
51	下表	修正		(構成メモ)は点線枠で囲み、18行目の後に挿入。(文章にまとめた例)は点線枠で囲み、21行目の後に挿入。	盲生徒の実態に即して。	

学年	ページ	行	修正事項	修正内容	備考
1年	52	下	修正	(文章にまとめた例)は点線枠で囲み、11行目の後に挿入。	盲生徒に実態に即して。
	53	5~8	修正	文頭の・は、(1)~(4)とする。中点は削除し2マスあけにする。	点字の特性を考慮して。
	54	11・14	補足	やつぱり(やっぱり) ぢやい(じゃい)	盲生徒の実態に即して。
		13	補足	かみけは脚注に髪の毛と入れる。	盲生徒の実態に即して。
	58	10~17	修正	ゴシック部分は第1段落挿入符で囲む。	点字の特性を考慮して。
	94	下	修正	「目標」は6行目の後に挿入。	盲生徒の実態に即して。
	95	下	補足	後付の説明の後に次の文を補足。 「なお、点字の手紙では、前付けとすることが多い。」	点字の特性を考慮して。
	102	4	修正	次の()に書きこもう。→次の空欄に入る言葉を考えよう。	点字の特性を考慮して。
	106		修正	原文を飾り罫で囲み、漢字と濁点を当てた歌は(濁点などを当てた歌)と表題を起こして、囲み枠で囲む。 注①の文は削除。 注に「ゐ」「ゑ」を挿入	盲生徒の実態に即して。
	121	下6	補足	・登るべきよーなし(ふつうの文字では「ヨー」は「ヤウ」と書き表す)	点字の特性を考慮して。
	125~126	上	修正	漢字4(資料7) 団子の絵は削除し、(だんごの箱に書かれた説明書きを見て)の文を挿入。	盲生徒の実態に即して。
		上17	修正	耳で聞いただけでは、「工事を始めるときの式」か「港に帰ったときの式」か「港に立ち寄ったときの式」かはわからない。	盲生徒の実態に即して。
	131	上 欄外	修正	「自然の中で循環する生分解性プラスチック」の絵を点図で表す。	盲生徒の実態に即して。
			修正	「グリーンプラ」マークの絵を削除。 左のような→「グリーンプラ」と書かれた	
	137	上8 下	修正	下の→次の マッピングの例を点図で表す。上10行目の後に挿入。	点字の特性を考慮して。
	138	上9	修正	「(2)内容や分量に応じて、ページ数などを決める。」の文の次に(普通の文字の場合は、紙の大きさや縦書き・横書きなどを決める。)の文を()で囲んで挿入。	点字の特性を考慮して。
	141	上		吹き出しの絵を次のように修正。 (ヒント)ー「何が」「どうする」という関係がはっきりすると文の意味がよくわかるね。	盲生徒の実態に即して。
	142~143	上7	修正	漢字5(資料8)	点字の特性を考慮して。
	152	下		「日本十進分類法のおおまかな分類」は枠で囲む。	盲生徒の実態に即して。
	171	上1	修正	下の→後の	点字の特性を考慮して。
下		修正	心に残っている体験を書き出した例は点線枠で囲み、上6行目のあとに挿入。(資料9)	点字の特性を考慮して。	
8		修正	左に→後に	点字の特性を考慮して。	
172	下	修正	構成メモの例は枠で囲み、上3行目の後に挿入。 学習の窓は枠で囲み、p.173 15行目の後に挿入。	点字の特性を考慮して。	
174	上1	修正	1. 絵は削除し、「この・その・あの・どの」の語を1回ずつ使って、せりふを作ってみよう。」と修正。	盲生徒の実態に即して。	

学年	ページ	行	修正事項	修正内容	備考
1年	174	下	修正	吹き出しを次のように修正。 (ヒント)「つなぐ言葉をうまく使うと、内容と内容の関係がわかりやすいね。」	盲生徒の実態に即して。
	175	上6	補足	片仮名→片仮名・点字	点字の特性を考慮して。
		上11	修正	漢字6 漢字の成り立ち(資料10)	盲生徒の実態に即して。
	176	上7	修正	問題文2 (資料11)	盲生徒の実態に即して。
	180	下	修正	研究計画書の例は枠で囲み、上9行目の後に挿入。	点字の特性を考慮して。
	181	上	修正	配付資料の例はそれぞれ点線枠で囲む。 学習の窓は配付資料の後に挿入。(資料12)	点字の特性を考慮して。
	182		修正	見開きで組む。	点字の特性を考慮して。
	194	7	修正	「。」→句点(。)	点字の特性を考慮して。
		下		▼を「練習」と置き換える。(以後p.204まで同様)	盲生徒の実態に即して。
	195	上1~10	修正	「/」ごとにマスあけで表記。	点字の特性に考慮して。
		下	修正	「遊んで」+「も」+「いる」→遊んで「も」□いる 「行って」+「は」+「みた」→行って「は」□みた	点字の特性を考慮して。
	196	上17	修正	1字下げて→二マスあけて	点字の特性を考慮して。
		下	修正	次の文章を段落、文、文節、単語に分けてみよう。	盲生徒の実態に即して。
	197	上9	修正	= 線で→「 」で、 — 線で→()で	点字の特性を考慮して。
	198	上3・5	修正	～ 線→「美しく」、 ---- 線→「鳴く」	点字の特性を考慮して。
		下1	修正	— 線部の→「 」で示した	点字の特性を考慮して。
		下7~14	修正	(1)花が美しく咲いた。□□「美しく□咲いた」 □□□□様子をくわしく述べる (2)本を読む。□□「本を□読む」□□□□内容を補う (3)どうやら大丈夫らしい。□□「どうやら□大丈夫らしい」□□□□述べ方をくわしくする (4)このパンはとてもおいしい。□□「とても□おいしい」□□□□量や程度などを表す	点字の特性を考慮して。
	199	上8	修正	青い鳥がかごの中で美しく鳴く。 「青い鳥が」(主部)□「かごの中で」(修飾部)□「美しく」(修飾語)□「鳴く」(述語)。	盲生徒の実態に即して。
	200	下17	修正	次の文に・・・→次の文にある並立の関係、または補助の関係の部分はどれか。	盲生徒の実態に即して。
	207~210		修正	「漢字に親しもう」(資料13)	
	218	下14	修正	「筆記用具の工夫」の説明文を次のように修正する。 「大切なところや、目立たせたいところには、普通の文字では色鉛筆、色つきのボールペン、蛍光ペンなどで印をつけるが、点字では符号類を用いるとよい。」	盲生徒の実態に即して。
	219	上	修正	ノート例 (資料14)	点字の特性に考慮して。
		下7	修正	漢字などは平仮名で書いておき、→語句などは、	点字の特性を考慮して。
220	題名	修正	「文章の推敲・読みやすい書き方」に修正	点字の特性を考慮して。	
	上6	修正	原稿用紙の使い方→文章の正しい書き方	盲生徒の実態に即して。	
	上14		漢字や・・・→仮名遣い、マスあけの誤りはないか。	点字の特性に考慮して。	
	下6・7	補足	「推す」→「推す(スイ)」 「敲く」→「敲く(コウ)」	点字の特性を考慮して。	

学年	ページ	行	修正事項	修正内容	備考
1年	221	上1	修正	原稿用紙の使い方→文章の読みやすい書き方(資料15)	点字の特性を考慮して。
	222	下2	修正	横書きの書式を知る →普通文字の横書きの書式を知る	点字の特性を考慮して。
		上4	修正	(通信文の例)とし、点線枠を付け、はがきを書くの前に挿入。	盲生徒の実態に即して。
	224		修正	1. ~100. 番号を付ける。	盲生徒の実態に即して。
	240	下	修正	(漢和辞典の例)(資料16)	点字の特性を考慮して。
	241	上	補足	(百科事典の例)に、ザトウクジラ□マッコウクジラ□シロナガスクジラ□人間の大きさのイラストは削除。と補足。	点字の特性を考慮して。
	242	上2	補足	この教科書の本文と→この教科書の原典の本文と	盲生徒の実態に即して。
		上3	修正	漢字を見比べてみよう。形が違っていることがわかる。→漢字を見比べてみると、形が違っていることが分かる。	盲生徒の実態に即して。
		下	削除	「永」の各字体は削除。	盲生徒の実態に即して。
	243		削除	・中点は削除。	点字の特性に考慮して。
		下14~15	修正 補足	読点で改行。文の後に(馬具は馬の装具、武具は戦争に用いる道具)と補足。	盲生徒の実態に即して。
267		修正	常用漢字表 付表(資料17)	点字の特性を考慮して。	
2年	27		修正	下段の図は、関係を点図で表す。	点字の特性に考慮して。
	28	下8	修正	□の中から選ぼう。→後のア.~エ.の中から選ぼう。	点字の特性に考慮して。
	29	上1	修正	朝「早く」起きて、公園まで散歩する。 走るのが「速く」て、とても追いつけない。 平仮名や点字で書けばどちらも「はやく」だが、漢字を使って書く場合、時刻なら「はや [・] 速 [・] く(ソウ)」、スピードなら「はや [・] 速 [・] く(ソク)」と使い分ける。このように同じ訓を持つ漢字には注意しよう。(資料18)	点字の特性に考慮して。
	32		修正	「聞き取りメモの例」は点線枠で囲み1行目の後に挿入。 「お知らせの例」は点線枠で囲み2行目の後に挿入。(資料19)	点字の特性に考慮して。
	33	下	修正	学習の窓は10行目の後に挿入。 傍線を引いたり、囲んだりする。→符号類などを用いて書く。 左下の表は枠を外し、脚注として扱う。	点字の特性に考慮して。
	34	下	修正	聞く場面の例は枠で囲み、「次へつなげよう」の後に挿入。	点字の特性に考慮して。
	38	図	修正	図は点図で表す	点字の特性に考慮して。
	39	9	修正	下の→次の	点字の特性に考慮して。
			表	(資料20)	点字の特性に考慮して。
	45	上3	修正	右の文の「シカ」と「しか」にはどのような違いがあるだろう。→この文の「しか」にはどのような違いがあるだろう。	点字の特性に考慮して。

学年	ページ	行	修正事項	修正内容	備考
2年	45	上	修正	挿し絵の吹き出しを外す。→ (ヒント1) □ー□「一つめの『しか』は文節の最初にあるね。」 (ヒント2) □ー□「二つめの『しか』は『絵はがき』という単語についているよ。」	点字の特性に考慮して。
		下1	修正	次の文の「カエル」と「かえる」の違いを、→次の文の「かえる」の違いを、	点字の特性に考慮して。
		下	修正	挿し絵の吹き出しを外す。→ (ヒント3) □ー□「最初の文節の『かえる』はいつも同じ形だけど、後の文節の『かえる』は後ろに続く言葉によって形が変わるね。」	点字の特性に考慮して。
	46	上1	修正	(資料21)	点字の特性に考慮して。
	49	下	修正	下表は19行目の後に挿入。(資料22)	点字の特性に考慮して。
	50	11~15	修正 留意事項	下の例を参考に、・・・→後の例を参考に、紙面のイメージを簡単に書いてみよう。次の観点を意識して、見やすい紙面構成を工夫しよう。 (1)内容の順序や分量はどうするか。 (2)必要な場合、どの位置に写真やイラスト、図表などを配置するか。 割り付けの例は17行目の後に挿入。(資料23)	点字の特性に考慮して。 (指導上の留意点) (2)のイラスト等の配置は、必要な場合であることに留意して指導する。
	51	16・17	修正	友達の助言を・・・→友達の助言を参考にして、工夫し、パンフレットを完成させよう。	点字の特性に考慮して。
		下	修正	(キャッチコピーを考える)は5行目の後に挿入。 学習の窓は以下のように修正し17行目の後に挿入。 紙面のイメージ図などを→紙面のイメージなどを文字の大きさや色の→符号などの	点字の特性に考慮して。
	52	1~	修正	パンフレットの例は前項の学習の窓の後に挿入。 (資料24) ▼の事項は(1)~(6)とし、パンフレットの例の後、次の通り修正して挿入。 縦書き・横書きに応じて→ (1)紙の向きや書き始めの位置に気をつける。	点字の特性を考慮して。
	58~59		修正	写真は削除し、文章を次のように修正。 正岡子規「・・・藤の花の短歌(該当ページ)も病床で詠まれたものである。『子規随筆』にこの短歌が収められている。」 北原白秋「・・・鋭敏で繊細な美の世界が歌われている。『草わかば・・・』の短歌はこの歌集に収められている。」	盲生徒の実態に即して。
	74		修正	構想メモの例は点線枠で囲み、上18行目の後に挿入。 紹介カードの例は点線枠で囲み、下3行目の後に挿入。(資料25)	点字の特性を考慮して。
	89	上7	修正	四百字程度で→四百字(点字32マス22行)程度で	点字の特性を考慮して。
	95	下	修正	「捨てる」の方言分布図は言語化し、上4行目の後に挿入。(資料26)	盲生徒の実態に即して。
97	上	修正	次の漢字は・・・→次の「」で示した部分は同じ漢字である。それぞれの語の意味を教えてみよう。	点字の特性を考慮して。	
99	下	修正	(テーマ例)は枠で囲み、7行目の後に挿入。	点字の特性を考慮して。	

学年	ページ	行	修正事項	修正内容	備考
2年	99	下1	修正	(テーマを分析する話し合いの例)は点線枠で囲み、16行目の後に挿入。	点字の特性を考慮して。
	100	上6	修正	付せん紙やカードに→付せん紙やカードなどに	盲生徒の実態に即して。
		下	修正	言葉を選ぶときの基準の例は点線枠で囲み、7行目の後に挿入。言葉を分類した例は点線枠で囲み、18行目の後に挿入。	点字の特性を考慮して。
	101	下9・14	修正	構成の工夫、資料の工夫は枠で囲み、17行目の後に挿入。	点字の特性を考慮して。
	102		修正	絵コンテの例は点線枠で囲み、資料の工夫の後に挿入。(資料27)	点字の特性を考慮して。
	103		修正	学習の窓は枠で囲み5行目の後に挿入。プレゼンテーションの様子は、見開きで組む。	点字の特性を考慮して。
	117	下	修正	「源氏と平家の戦い」の地図は点図で表し、戦いの名称と年月は古い順に番号をつけて書く。(資料28)	点字の特性を考慮して。
	121	下	修正	係り結びは枠で囲み、9行目の後に挿入する。	盲生徒の実態に即して。
	124	13	削除	「然」は「燃」と同じ。	盲生徒の実態に即して。
		15	補足	二句十字→二句十字の脚注をおこす。	点字の特性を考慮して。
		16	修正	然=赤→燃える(赤)	盲生徒の実態に即して。
	127	下	修正	白文は点線文字で表す。	盲生徒の実態に即して。
	128		修正	漢字4(資料29)	盲生徒の実態に即して。
	132	上	修正	イースター島の地図は、南アメリカを基準とした点図で表す。	点字の特性を考慮して。
	137	上	修正	(資料30) 二百字→二百字(点字32マス11行)	点字の特性を考慮して。
	139	上4	修正	右の→この	点字の特性を考慮して。
			修正	【根拠】の3つの文を点線枠で囲み、18行目の後に挿入する。	点字の特性を考慮して。
		下	修正	テーマ例は枠で囲み、p.142意見の例(吹き出しにつける見出し)の後に挿入する。	盲生徒の実態に即して。
	141	3	修正	意見文の例は点線枠で囲んで見開きに組み、脚注は本文の該当ページに合わせて書く。	点字の特性を考慮して。
	142	挿絵	修正	3人の吹き出しは意見の例という見出しをつけて点線枠で囲み、右から順に7行目の後に挿入する。	点字の特性を考慮して。
		上	修正	次へつなげようは、テーマ例の後に挿入する。	点字の特性を考慮して。
	143	上11	削除	絵を参考にして、	盲生徒の実態に即して。
		下1	修正	□の中の単語を①～⑤の()に→次の語群にある単語をその後の(1)～(5)の空欄に	点字の特性を考慮して。
下2		補足	枠を削除し、その前に語群という語句をつけ加える。	点字の特性を考慮して。	
149	左	修正 補足	図4・図5は点図で表し、該当ページを入れる。	点字の特性を考慮して。	
156	上	補足	索引例という見出しをつけて、9行目の後に挿入する。(資料31)	点字の特性を考慮して。	
	下	修正	本を検索する画面の例は、枠で囲み、20行目の後に挿入する。	点字の特性を考慮して。	
175	下	修正	学習の窓は、下の3行目の後に挿入する。	盲生徒の実態に即して。	
177	上2	修正	下の図→マッピングの例	盲生徒の実態に即して。	
	下	修正	マッピングの例を語句で書き表し、枠で囲んで、3行目の後に挿入する。(資料32)	盲生徒の実態に即して。	
178	上9	修正	右は→これは	点字の特性を考慮して。	

学年	ページ	行	修正事項	修正内容	備考
2年	178	下	修正	学習の窓は、上の14行目の後に挿入する。	点字の特性を考慮して。
		下	修正 削除	男の子の吹き出しを削除し、(ヒント)として書き表し、学習の窓の後に挿入する。	盲生徒の実態に即して。 点字の特性を考慮して。
	181	上	修正	すべての活用形に「起こ」という語幹をつけて書き表す。	盲生徒の実態に即して。
		下5~	修正	○→適切。 ×→不適切。	点字の特性を考慮して。
	182	上2	修正	「危」→「危険」の「き」 「危い」と書いてしまうと→この「き」に「い」と送りがなをつけると	盲生徒の実態に即して。
	185	下	修正	女の子の吹き出しは、単語のみ削除して、残りはヒントとして書き、11行目の後に挿入する。	盲生徒の実態に即して。
	186~ 187	4~ 22	修正	見開きで組む。朱線は第3指示符で囲む。	点字の特性を考慮して。
	188	下	修正	文章にまとめた例は点線枠で囲み、p.189の11行目の後に挿入する。	点字の特性を考慮して。
	189	下	修正	次へつなげようは、19行目の後に挿入する。	点字の特性を考慮して。
	193	下	削除	3種類のステッカー	盲生徒の実態に即して。
			補足	脚注①の後に、「補助犬の同伴が可能な施設であることを示すステッカーもある。」という文を補足する。	盲生徒の実態に即して。
	198	上2	修正	文中のゴシック体を「」で囲む。下欄の仕切り線は消し、1段組で表記。(以後p.206まで同様) 傍線部は削除。「/」部分は2マス、「・」部分は1マスあけで表記。	点字の特性に考慮して。
		上12	補足	『カエルがかえる』の最初の文節の『カエル』は、文中で語形が変わることはないが、後の文節の『カエル』は・・・」に修正。	盲生徒の実態に即して。
		下	移動	▼を「練習」と置き換える。(以後p.206まで同様) 文節に注意して、自立語を抜き出してみよう。 に修正し、10行目の後に挿入。 ▼「練習」を17行目の後に挿入。 □で囲んでみよう。→抜き出してみよう。	盲生徒の実態に即して。
	200	下	修正	黄色の部分をつら下がり枠で囲む。(p.206まで同様) (1)弟が鏡を壊す(他動詞)。□□鏡□●●□壊される対象 (2)鏡が壊れる(自動詞)。□□鏡□●●□主語□□と修正し、7行目の後に挿入。 残りの下欄は16行目の後に挿入。	点字の特性を考慮して。
201	下	移動	「二種類の修飾語」を7行目の後に挿入。	盲生徒の実態に即して。	
	下	修正	+を「と」に代えて書き表す。	盲生徒の実態に即して。	
202	下	移動	「次の呼応の副詞を使って短文を作ろう。」は12行目の後に挿入。 『不思議な』と『大きな』は違う品詞?の「➡」後の「不思議だ。」・×「大きだ。」をそれぞれ削除し、14行目の後に挿入。	盲生徒の実態に即して。	
203	下	修正	— 線で→「」で示したと修正し、7行目の後に挿入。	点字の特性に考慮して。	

学年	ページ	行	修正事項	修正内容	備考	
2年	204	下	移動	「活用形」は「イ」段の音の変化の後に挿入。 「イ」段の音の変化のローマ字はかなに変え、それぞれ、活用語尾の頭を揃える。p. 205の3行目の後に挿入。	点字の特性を考慮して。	
	205	下	修正移動	十の部分を以下のように修正し、12行目の後に挿入。 「書く」と「た」→書いた 「打つ」と「た」→打った 「飛ぶ」と「た」→飛んだ	盲生徒の実態に即して。	
	206	下	修正移動	(例) 以下を次のように修正し、4行目の後に挿入。 「白く」と「ございます」→しろう (シロー) □ございます 「楽しく」と「ございます」→たのしう (タノシュウ) □ございます	点字の特性を考慮して。	
	211~ 214		修正	小学校6年生で・・・正確に書けるようにしよう。 → 削除。(資料34)	盲生徒の実態に即して。	
	218~ 219		修正	各ジャンルの書く順序は、自然・環境→自分・生活→福祉→情報→文化→国際とする。 各ジャンルの上左から各テーマ例を、改行二マスあけで書く。イラストは削除。	盲生徒の実態に即して。	
	221	上1	修正	(アンケート例) とし、ぶら下がり枠で囲む。 (資料35)	盲生徒の実態に即して。	
	222~ 223	8~9 表 グラフ	削除 修正	「ここでは、調査した・・・例を示している。」を削除。 下欄のグラフの例は削除。 (資料36) をp. 222の11行目の後に挿入。	点字の特性を考慮して。	
	223	上10	修正	一・二字下げて→五マスあけて	点字の特性を考慮して。	
	225	上	修正	「能舞台平面図」は点図で表す。	盲生徒の実態に即して。	
	242	下2 ~5	修正	もともと・・・という音とともに、→古い字形は、うらかな陽光を表す部分と、チュン (これがシュンとなった) という音を表す部分とでできており、	盲生徒の実態に即して。	
	243	上10 ~12	修正	「青」は《丹》と《生》からできていて・・・植物が芽生えることを表した。→「青」は染料を採るための井戸と、植物が芽生えることを表す部分とでできている。	盲生徒の実態に即して。	
	3年	16	2	削除	^{コンマ} 、 ^{ピリオド} や . →コンマやピリオド	点字の特性を考慮して。
		30	下絵	修正	イラストを削除し、以下の文を下10行目の後に挿入。 □□□□ヒント □□ 『山田さんが笑います。』の『ます』は、聞く人に対する敬意 (丁寧) です。」	盲生徒の実態に即して。
31		上6	修正	動作 (行為) 主→動作主 (行為主)	点字の特性を考慮して。	
		上絵	修正	イラストを削除し、以下の文を上7行目の後に挿入。 □□□□ヒント □□ 『お客様がお話しになります。』の『お話しになります』は、お客様に対する敬意 (尊敬) で、『ます』は、聞く人に対する敬意 (丁寧) です。」	盲生徒の実態に即して。	
		上表 下絵	修正 修正	お (御) ~になる→お~になる □□ご~になる イラストを削除し、以下の文を下10行目の後に挿入。	点字の特性を考慮して。 盲生徒の実態に即して。	

学年	ページ	行	修正事項	修正内容	備考
3年	31			□□□□ヒント □□『父が先生に御説明します。』の『御説明し』は、父の動作を受ける先生に対する敬意（謙譲）で、『ます』は、聞く人に対する敬意（丁寧）です。」	
		下表	修正	お（御）～する→お～する□□ご～する お（御）～申し上げる→お～申し上げる□□ご～申し上げる	点字の特性を考慮して。
	32	上3	修正	×印→（あやまった表現）	点字の特性を考慮して。
		上8	修正	（〇〇は）もう、お帰りになりました —— 「お帰りになり」は、省略された人物（〇〇は）に対する敬意。	点字の特性を考慮して。
		上10	修正	先日、（〇〇に）お目にかかりました —— お目にかかり」は、省略された人物（〇〇に）に対する敬意。	点字の特性を考慮して。
		下2	修正	□□□□先生が、御自身で本をお書きになりました。 □□「御自身」□「お書きになり」は、動作主「先生」への尊敬語、「まし」は、聞き手への丁寧語。	点字の特性を考慮して。
		下3	修正	□□□□関心のある方にお貸しします。 □□「お貸しし」は、受け手への謙譲語、「ます」は聞き手への丁寧語。	点字の特性を考慮して。
	33		修正	漢字1（資料37）	盲生徒の実態に即して。
	35	上4	削除	次の写真は、→削除	盲生徒の実態に即して。
		上5	修正	ものである。→ものがある。	盲生徒の実態に即して。
	36	上4	削除	写真は→削除	盲生徒の実態に即して。
		上5	修正	ものである。→ものがある。	
		上6	修正	示したものは→あるものは	
		上7	修正	上の○が→上の球の形が ◇が→下の立方体が	
		下1	削除	（消します）→削除	
	37	14	修正	説明の例を見開きで組む。	点字の特性を考慮して。
		下	移動	学習の窓を説明の例の後に移す。	点字の特性を考慮して。
	38	6	留意事項	この写真を見てください。 教材の学習目的に配慮して表記をそのまま残した。	指導上の留意点
	48	上2 ～6	修正	1 例を参考に、・・・→ 1. 1. ～3. の（ ）に示した部分によって、文の意味内容がどのように変わるか比べてみよう。 1. 猫（が）ねずみ（を）追いかける。 2. 子供（が）猫（と）ねずみ（を）追いかける。 3. 子供（を）猫（と）ねずみ（が）追いかける。	盲生徒の実態に即して。
		下8～	修正	次の表現の違いを・・・→次の表現の違いを、「 」で示した部分に注意して比べてみよう。 (1)この本はおもしろい。 (2)この本はおもしろかつ「た」。 (3)この本はおもしろかつ「たそうだ」。	盲生徒の実態に即して。
49	上3	修正	例文と（ ）内の・・・→例文と後の「 」で示した部分は同じ漢字である。それぞれの意味を調べ、比べてみよう。	盲生徒の実態に即して。	
		修正	漢字2（資料38）	盲生徒の実態に即して。	

学年	ページ	行	修正事項	修正内容	備考
3年	51	2～	削除 修正	左は→削除 新聞の「一面」とよばれる面である。これを使い、 →新聞の「一面」とよばれる面から、	盲生徒の実態に即して。
		5	修正	新聞の図を削除して、次の見出しと順序で表す。 □□□□「○○○○新聞」の一面の構成 1. (発行年月日) その新聞が発行された日付。 2. (見出し) 記事の内容を短い言葉で表したものの。 3. (リード文) 記事本文の前につけられたその記事の概要。 4. (キャプション) 写真の説明のこと。絵解きともいう。 5. (コラム) 世の中の出来事や季節のテーマについて書かれた短い文章。筆者の意見や感想が盛り込まれる場合が多い。 6. 広告 7. そのほかに新聞には、新聞社の意見をまとめた社説や、読者の意見を掲載した投書欄などがある。	盲生徒の実態に即して。
	52	3	修正	次ページの→後の	盲生徒の実態に即して。
	53	1～	移動	観点①から④を前ページの3行目の後に移す。	盲生徒の実態に即して。
	62		補足	写真は削除し、写真の説明文を次のように修正して、尾崎放哉の人物紹介の後に補足。→小豆島の西南部にある南郷庵に住んでいた。庵の近くには余島の浜がある。(香川県小豆郡土庄町)	盲生徒の実態に即して。
	76	上14	修正	注⑥の説明→漢字説明につき省略。	点字の特性を考慮して。
	80	上6	削除	詞花集・→削除	点字の特性を考慮して。
	102	上5	補足	二百～四百字→二百～四百字(点字32マス11行～22行)	点字の特性を考慮して。
	103	下3	修正	問題文及び①～③の6カ所の()を空欄記号にする。	点字の特性を考慮して。
	105	上2 ～	補足 修正	「憂愁」→心配して悲しむの意味の「憂愁」 「上の漢字」・「下の漢字」→「前の漢字」・「後の漢字」	点字の特性を考慮して。
		上13	修正	漢字3(資料39)	盲生徒の実態に即して。
	108	上4	修正	下の例を→次の例を	点字の特性を考慮して。
	109	上5	修正	(下の例)→(後の例)	点字の特性を考慮して。
		上17	補足	二百字→二百字(点字32マス11行)	点字の特性を考慮して。
	111	1～	修正	見開きで組む。	点字の特性を考慮して。
	116～ 118		削除 修正	挿絵を削除 次の六歌仙についての説明文を出典の後に入れる。 「六歌仙」とは「仮名序」の中で短評を添えて挙げられている歌人、小野小町・大伴黒主・在原業平・文屋康秀・僧正遍昭・喜撰法師を指す。	盲生徒の実態に即して。
	119	下	修正	・・・和歌の左下に→和歌の後に・・・題字の後に 入れる。	点字の特性を考慮して。
	119～ 124		修正	各歌の注をそれぞれの歌の後に挿入する。	盲生徒の実態に即して。

学年	ページ	行	修正事項	修正内容	備考
3年	128~129		修正	「おくのほそ道」俳句地図は、p.130・131の本文の後に挿入し、関連する俳句は後に示す。(該当ページ)解説のある所は深川から順に行程に添って番号を付けて示す。	点字の特性を考慮して。
	134~135		削除	漢文は書き下し文のみにし、訓読文はすべて削除。	盲生徒の実態に即して。
	137	上2	修正	1 — 線の語の→「 」で示した語の	点字の特性を考慮して。
	138	上10	修正	2 — 線の語の読み方と→「 」で示した語の	
	143	上	削除	挿絵を削除	盲生徒の実態に即して。
	144		補足	出典の次に「挿絵(省略)」とし、p.143の挿絵の説明文を入れる。	盲生徒の実態に即して。
	151	上	削除	挿絵を削除。	盲生徒の実態に即して。
		下1	修正	次の絵を見て、→次の会話文で、	盲生徒の実態に即して。
		下絵	修正	挿絵を削除し、吹き出しに、A「 」, B「 」, C「 」をつけて表す。	盲生徒の実態に即して。
	152~153		修正	漢字5(資料40)	盲生徒の実態に即して。
	168	下5	修正	左の図で知っているものは幾つあるだろう。 →次の言葉はそれぞれどの部分を指すか、調べてみよう。 天・地・背・帯・しおり・小口・見返し・のど(開いたときの中央部分)・扉	盲生徒の実態に即して。
	172	下2	削除	大学ノートの大きさで	点字の特性を考慮して。
		下10	削除	イラストを添えて	盲生徒の実態に即して。
		下20	修正	書き入れてもらう。→書いてもらう。	盲生徒の実態に即して。
	173	上4	修正	文字の大きさ・形→レイアウト	盲生徒の実態に即して。
		上5	修正	イラストや写真→写真など	盲生徒の実態に即して。
	192~193		修正	漢字6(資料41)	盲生徒の実態に即して。
	194	下4	修正	助詞に線を引こう→助詞を抜き出してみよう	点字の特性を配慮して。
	198~	4~	修正	「・」は削除し1.~10.にする。	点字の特性を考慮して。
	198	17・18	補足	う・よう→う(一)・よう(よ一)	点字の特性を考慮して。
		下14	修正	一線を引いた→「 」で示した	点字の特性を考慮して。
	200	下	削除	脚注の図	盲生徒の実態に即して。
	201	下1~7	修正	p.202 4行目の後に挿入する。	点字の特性を考慮して。
	203	表中	補足	「ーう」→「ーう(一)」 以下p.204も同様。	点字の特性を考慮して。
	204	備考	削除	備考欄の棒線は削除。	点字の特性を考慮して。
	207~208		修正	漢字に親しもう(資料42)	盲生徒の実態に即して。
	210	4	削除	・→は2年で学習した内容。	点字の特性を考慮して。
	212~213		修正	自然・環境, 自分・生活, 福祉, 情報, 文化, 国際の順に上から列挙する。	点字の特性を考慮して。
	218~	下	修正	作者の解説は、本文の後にまとめて入れる。	点字の特性を考慮して。
	232	下15・16	削除	漢詩を削除。	盲生徒の実態に即して。
232	下1	修正	兮という間投詞が→原文では、兮という間投詞が	盲生徒の実態に即して。	
	下14	修正	「虞兮虞兮」→虞兮虞兮(原文では「虞□兮□虞□兮」)	盲生徒の実態に即して。	

学年	ページ	行	修正事項	修正内容	備考
3年	234	上9 ・10 下10 ・11	削除	(一線の漢字は、この教科書の新出漢字として扱われていないもの。)	盲生徒の実態に即して。
		下2 ~16	補足	熟語のうち、次の同音異義語は意味を補足した。 嗣子 (あととり) 扶養 (やしなう) 拐帯 (おうりょう) 更迭 (役目の人をかえる) 謁見 (高貴な人にお目にかかる) 紡錘 (糸を紡ぎながら巻き取る装置) 統帥 (軍隊を指揮・統率する) 矯正 (欠点を直す) 老翁 (年老いた男) 王侯 (王と諸侯) 搭載 (装備されている) 令嬢 (他人の娘の敬称) 抹消 (消す)	盲生徒の実態に即して。
	235	上2		～崎 (みさき) 法曹界 (法律業務に従事する仲間)	盲生徒の実態に即して。
		上7	修正	それぞれ、常用漢字表の読み方と比べてみよう→それぞれ、資料編の常用漢字表の「付表」で調べてみよう。	盲生徒の実態に即して。
		上16 ~	修正	この俳句では「木枯らし」を漢字1字で書き表している。これは日本で、作られた漢字であり、部首の「かぜ」と「木」を・・・「凧」は部首の「かぜ」と「し(やむ)」の会意文字で、凧がやんで波が静かなことを表す。「凧」は、部首の「かぜ」と「ぬの」の・・・。	盲生徒の実態に即して。
下10	修正	漢字は音訓で表す。 「どう (はたら__く)」・「こむ」・「はたけ」・「とうげ」・「もんめ」・「わく」・「さく (しぼ__る)」	盲生徒の実態に即して。		

3 参考資料

資料1 「点字の書き方」

書き方の形式

1 作文一般

題は、1行目に書く。全文が10数ページにわたるような作品の場合には、題を2行目に書いても差し支えない。題の書き出しは、普通は七マス目であるが、題の長さによって、短かければ九マス目、長ければ五マス目から書くようにする。なお、2行にわたる場合には題の頭を揃えるか、2行目を1行目の書き始めからさらに二マス下げて表す。

名前は、題を書いた次の行に書く。名前の後は行末まで二マスくらいあくようにする。

本文は、名前を書いた次の行から書き始める。長い作品の場合には、名前の後1行あけて本文を書いてよい。文章の書き出しや段落の変わり目では行替えし、三マス目から書く。

本文の1行を書き進み、行末から次の行に移って一マス目から書き続けることを行移しという。行移しをして書き続ける場合、行末にゆとりがあっても、ひと続きに書くべき語句がその行に入りきれないときには、次の行に移して書く。そうしないと、「盲学校を卒業した。」という文が、「もう学校を卒業した。」のように意味が変わってしまうことにもなりかねない。ただし、本来ひと続きに書くべき助詞や、助動詞のうち「ようだ」・伝聞の「そうだ」・「ごとし」・「らしい」・「みたい」・「です」・「だ」が行末に書ききれない場合には、次の行に移して書いても差し支えない。また、行を移すときに、行末にマスあけをするゆとりがなくなった場合でも、行移しをすることによって一マスあけか二マスあけの役割を果たすので、次の行の行頭でマスあけをしてはならない。

行移しにあたっては、特に次の事柄に注意する必要がある。

(1) 2行にまたがって書いてはならないもの

- ① 一続きに書き表すべき数字やアルファベット
- ② 濁音や拗音のように二マスで構成されている文字
- ③ ふたえカギ、指示符類などのように二マス以上で構成されている符号類

(2) 行頭に書いてはならないもの（これらの符号が、もし行末に書ききれない時には、その符号の接続する前の語句と共に次の行に移して書く。）

- ① 句点・疑問符・感嘆符・読点・中点など
- ② 囲み符号（カギ類・指示符類・カッコ類・点訳者挿入符・段落挿入符・外国語引用符・発音記号符など）の閉じ符号
- ③ つなぎ符・波線・小見出し符・詩行符類など

(3) 行末に書いてはならないもの

- ① 数符・外字符などの前置記号
- ② 囲み符号（カギ類・指示符類・カッコ類・点訳者挿入符・段落挿入符・外国語引用符・発音記号符など）の開き記号—これらの符号は、行末に余裕があっても、その符号に続く語句がその行に書ききれないときには、開き符号から次の行に移して書く。
- ③ ページは、点字用紙の表の右上に奇数ページだけを書く。

2 詩・短歌・俳句など

自由詩は三マス目から書き始めるが、定型詩は普通五マス目から行頭を揃えて書き出してよい。行や連によって、書き出し位置に変化をつける場合は、二マスまたは四マスを単位として差を付けて書き表す。詩の1行が点字で2行にまたがるときには、2行目は書き始めの行と二マスを単位として差を付けて書き表す。

短歌は、書き下しの場合三マス目から書き始め、その行に書ききれない部分は次の行の一マス目から書く。上の句と下の句を分けて2行に書き分ける場合には、上の句は三マス目から、下の句は五マス目からというように、行の書き出しに差をつける。3行書きの詩は、1行ごとに行を改めて書き表す。

俳句や川柳は、三マス目または五マス目から書き始める。

（定型詩の例）

□□□□ヤマノ□アナタノ□ソラ□トオク
□□□□「サイワイ」□スムト□ヒトノ□イウ。
□□□□アア、□ワレ□ヒトト□トメユキテ、

□ :::: :::: □ :::: □ :::: □ □ スズキ □ ジロー □ □

(例4)

・ ・ ・ □ デワ □ ゴケンコーヲ □ オイノリ □ イタシマス。

□ □ □ □ 2005ネン □ 4ガツ □ 15ニチ

スズキ □ ジロー □ □

5 日記類

個人的な日記には、一定の形式はない。個人の好みに応じてどのように書いてもよいものである。しかし、普通は最初に日付・曜日・天候などを書く。

日付については、次のような略記法を用いることもできる。例えば、2005年4月15日を、

:::: :::: :::: :::: :::: :::: ::::

:::: :::: :::: :::: :::: :::: ::::

:::: :::: :::: :::: :::: :::: ::::

のように略記する方法もある。また、年数は、各月の1日だけに記入するとか、1月1日だけにするとかの工夫はあってよいことである。

日付に続く曜日・天候なども、それぞれ2マスずつあけて書くべきものであるが、

□ :::: :::: □ :::: :::: □ モク □ カイセイ □ ムフー

のように一マスあけて書き続けても差し支えない。

また、行末の扱いにしても、一般には行末が何マスあいていても、次のひと続きの語句が書けない場合は行移しをするが、個人的な日記では、語句の切れ目などで行移しをすることも許される。

学級日誌などの公的な日誌類は、記入する項目が予め決められていることが多い。そうした場合には、項目毎に行を改め、項目の後は二マスあけるか、小見出し符を用いるとよい。また、毎日同じ項目を繰り返して書かず、項目を記号や番号に置き換えるなどの工夫を行うのも良いことである。なお、毎日交代で書くような場合には、そのつどページを改めたり、裏は使用せず点字用紙を改めたりすることも多い。

いずれにしても、継続して書く日記類の場合には、レターファイルとかルーズリーフなどでそのつど整理しておくことが大切である。

6 ノート類

ノートは教科や書くべき内容の違いによって、とり方も異なるものである。それだけに、書き方もそれぞれに工夫して、後で見やすい形式でとっておく必要がある。

一般に、ノート類は大項目・中項目・小項目とに分けて箇条書にすることが多い。この場合、項目の大きさを区別するために、項目に数字をつけて大小の序列を表すことが多い。一般的には、大きい項目から順に、

何も符号をつけない数字 1

ピリオドをつけた数字 1.

第1カッコをつけた数字 (1)

第1カッコとピリオドをつけた数字 (1.)

のように用いる。(数字の代わりに50音やアルファベットなどを用いる場合も、これにならう。)

数字に符号をつけない場合は、数字の後を二マスあけて項目や見出しを書く。数字に符号をつける場合は、一マスあけてもよい。

書き出しの位置は、最も大きな項目を九マスあたりから書き始め、項目が小さくなるごとに二マスずつ前を出して書くのが普通であるが、ノート類では、逆に最も大きな項目を一マス目から書き、項目が小さくなるごとに二マスずつ下げて書く方法をとってもよい。いずれの場合でも、同じ大きさの項目は数字等につける符号を合わせるとともに、書き出しの位置も同じマス目に揃えることが大切である。

ノートの書き方としては、そのほか、カッコ類・矢印・棒線・点線・波線類などの符号や、数に関する略記法を活用して見やすいノートを工夫すべきである。また、各ページの最後の行をあけておいて、そのページに書かれている内容を簡単に記しておく、後でノートを利用する際に便利である。

なお、ノート類は常に分類し、整理して、ファイルなどにとじ込んでおくように心がけることが

特に大切である。

7 答案

点字では、一般的には試験問題と答案用紙が別になっている。したがって、答案を書くに当たっては、次のようなことに注意しなければならない。

- (1) 答案に書く番号や記号は、問題文の番号や記号と同じものを用いる。問題文に「問1」と書いてあれば、答案にも「問1」と書いて、その答案を書く。問題文の番号に句点が付いていれば、答案の番号にも句点を付けて、第1カッコが付いていれば、同じように書く。番号と解答との間は、二マスあける。
- (2) 問題はどこから解いてもよいのであるが、前後を動かして解答する場合には、それが何番のどの問の答案であるかが分かるように、番号をはっきりと書いて解答する。
- (3) 答えは1問ごとに行替えをして書く。
- (4) 記号で答えるような場合には、特に書き間違えないように注意する。もし、書き間違いをした場合には、その部分をメの字にしてしまうか、改行して訂正と書いた上で、改めて答案を書く。
- (5) 答案を見直して、答案を書きかえる場合には、訂正と書いた後に、問題番号をはっきりと書いてから、改めたい答案を書く。

8 目次

目次は、見出しの項目が少ない場合でも、1ページを使用する。

目次は、1行目の中程に目次と書き、次の1行をあけて見出し語を書く。見出し語は、1行に1項目ずつ、行をつめて書くが、2行以上にまたがるときは、見出し語の行頭から二マス下げ、さらに行末がページを表す数字の位置にかからないよう書く。項目に序列がある場合は、その序列にしたがって、例えば五マス目・三マス目及び一マス目から書き始めるというように、書き始めの位置の違いを表す。

ページ数は、普通行末に記し、項目とページ数との間は、点線で埋める。この際に用いられるのは、□三や:::の点であるが、点線の前後は、それぞれ一マスずつあける。

9 略記法

ノート類や試験問題などには、しばしば略記法が用いられる。

ア. ページ・行の略記

pと1を用いて、ページと行を示す。その際に、行を下から数えた方が早い場合には、下という言葉を行の数字の前に入れて示す。

p 3 □ 1 5 (3ページ5行目)

p 4 □ シタ □ 1 2 (4ページ下から2行目)

イ. 下がり数字を用いる略記

::: (2と5分の3)

::: (4ページ8行目)

::: (11月3日)

:::の点を間にはさむ略記

::: (10時40分)

:::の点を間にはさむ略記

::: (3丁目1番7号)

オ. マスあけを省略してつめて書く略記

::: (電話番号)

資料2 (1年 p.12 各学年共通)

□□□□□この教科書で学習するみなさんへ

資料5 漢字1 漢字の組み立てと部首 (1年 p.28~29)

次のなぞなぞの答えに当てはまる漢字は何だろうか。

※ 以後、漢字及び部首等は、点線文字で表す。

(1) 山にある石は何か。

山 石 → 岩
ヤマ イシ イワ

(2) 人が木のそばですることはなにか。

人 木 → 休
ヒト キ ヤスム

これらのなぞなぞは、漢字が部分に分けられることを利用して作られている。同じようにして、次の漢字で問題を作ってみよう。

粉 鳴
コ(ナ) メ(ナク)

漢字の組み立て

漢字部位を表す図およびへん、つくり、かんむり、あし、たれ、にょう、かまえは点図にする。

各漢字ごとに、図、部首等の説明、表すもの、漢字例の順に示す。

漢字例は以下のように修正する。

漢字例

「タイ (カラダ)」 「ジュウ (ス_レ_ム)」
「オウ (オ_ス)」 「シ (ユビ)」
「ベツ (ワカ_レル)」 「リ (キ_ク)」
「チョウ (イタダ_ク)」 「ガン (カオ)」
キョウ「シツ」 ライ「キヤク」
「ガ (メ)」 「サイ (ナ)」
「シ (ココロザ_ス)」 「ヒ (カナ_{シイ})」
「ショウ (テ_ル)」 「ネツ (アツ_イ)」
「テン (ミセ)」 「ショウ (ユカ)」
「ビョウ (ヤ_ム)」 「ツウ (イタ_イ)」
「エン (ノ_{ビル})」 「ケン (タ_{テル})」
「ツウ (トオ_ル)」 「キン (チカ_イ)」
「コン (コマ_ル)」 「エン (ソノ)」
「カン (アイダ)」 「カイ (ヒラ_ク)」

各部首を点線文字で表し、漢字例は以下のように修正する。

にんべん — 「タイ (カラダ)」・「サク (ツク_ル)」・「シン (ノ_{ビル})」・「ジン」ギダ
テ

ひとやね — 「コン (イマ)」・「カイ (ア_ウ)」・「ヨ (アマ_ル)」・「カイ」ジョケン

ひと — 「ジン (ヒト)」

次の(1)～(4)の「」で示した部分の漢字について、部首に注意して漢和辞典などで調べてみよう。

(1) しんにょう — 「ソウ (オク_ル)」 「ト」チュウ 「トウ (ス_ク)」
「へん (アタ_リ)」

(2) さんずい — 「カン (アセ)」 「フ (ウ_ク)」 「タキ」ツボ 「ルイ (ナミダ)」
「セン (イズミ)」 「カツ (スベ_ル)」 「コウ」ズイ

(3) まだれ — 「オウ」エン 「キョウ」ジュン 「カイ (ココロヨ_イ)」
「ユウ」ゼン 「ド (イカ_ル)」 「ジョウ (ナサ_ケ)」

(4) ころも — 「サイ (タ_ツ)」 「ソウ (ヨソオ_ウ)」 「ホ (オギナ_ウ)」
「リ (ウラ)」

資料6 漢字2 混同しやすい漢字 (1年 p.47)

1 次の各組の「 」で示した漢字は、形が似ていて間違えやすい。それぞれの漢字の音と訓及び漢字の意味を調べよう。

2 次の各組の漢字は、形が似ているうえに音も同じである。a, bの語句について「 」で示した部分に注意して、語句の意味を調べてみよう。

(1)

- a. 「紛」争
- b. 「粉」末

(2)

- a. 「徐」行
- b. 解「除」

(3)

- a. 新「郎」新婦
- b. 「朗」読

(4)

- a. 「機」会均等
- b. 「幾」何学

3 次の文の中で「 」で示した漢字を使って、熟語をひとつずつ作ろう。

- (1) 「猫」の絵を「描」く。
- (2) 福「祉」活動を通じて「社」会参加をする。
- (3) 「洪」水の影響で、電力の「供」給不足が起こる。
- (4) 「講」演会のチケットを「購」入する。
- (5) 「空」気の約五分の四は「窒」素である。
- (6) 「招」待客の一人一人に自己「紹」介しながら会場を一巡した。

資料7 漢字4 漢字の音訓 (1年 p.125下~p.126)

1 次の漢字には、多くの読み方がある。音・訓ともに次に示す以外にどんな読み方があり、どんな語として使われるか、漢和辞典などで調べてみよう。

□□ジョウ (ア^ニガ^ル) □□カ (シ^タ) □□ガイ (ソ^ト) □□クウ (ソ^ラ) □□コウ (イ^ク)

□□ジ (オ^サメ^ル) □□ダイ (カ^ワル) □□ツウ (ト^オル) □□テイ (サ^ダメ^ル)

□□ホ (アル^ク) □□ヘイ (タイ^ラ)

2 次の各組の「 」で示した部分は同じ漢字であるが、どのような音読みをするかによって、表す意味が異なる。それぞれの文では、どんな意味だろうか。

□□□□ (1)

□□「^ニ分」後、正門前に集合しよう。

□□休養を十分にとる。

□□□□ (2)

□□床の間など「ぞうさく」に凝った家。

□□そんな願いなら、かなえるのは「ぞうさ」もない。

□□□□ (3)

□□「1行」も書けない

□□首相は来訪者「いっこう」と和やかに会談した。

3 「セイブツ」「なまもの」のように、音読みにするか訓読みにするかで、別の意味になる語がある。それぞれ、語の意味を考えよう。

- 「ダイジ」 □□□□「おおごと」
- 「シキシ」 □□□□「いろがみ」
- 「ショニチ」 □□□□「はつひ」
- 「フウシャ」 □□□□「かざぐるま」
- 「タイカ」 □□□□「おおや」

4 次の「 」をつけた語は、後の（ ）内のどちらを使うか。また、もう一方の語は、どういう使い方をするのだろうか。

- (1) 設立の「シュシ」に賛同する。□□（その事をするねらい □□植物のたね）
- (2) 敵に攻められて、城は「カンラク」した。□□（攻め落とされること □□喜び楽しむこと）
- (3) ゲームに「サンカ」したいという誘惑に駆られた。□□（物質が酸素と化合すること □□仲間に入ること）
- (4) 普段は意識していない「センザイ」能力を引き出す。□□（内部にひそんで外に現れないこと □□物を洗うための薬剤）
- (5) 先生への手紙を、「ハイケイ」から書き始める。□□（手紙文のはじめに書く、あいさつのことば □□絵や写真で、中心物の後ろの部分）
- (6) 土砂くずれの影響で、工場は「ゼンカイ」した。□□（完全にこわれること □□ひとつ前の回）
- (7) 速やかに、質問「ジコウ」を整理する。□□（ひとつひとつの事柄 □□四季それぞれの気候）

資料8 漢字5 辞典を活用しよう（1年 p.142上）

(オ) □□オウトウ

□□□□意味 □□□□バラ科のサクラ属の落葉高木。花は桜に似ている。実はさくらんぼ。

□□□□メモ □□□□夏の季語。

□□「桜桃忌」 □□毎年6月19日。作家の太宰治をしのぶ日。死の直前の名作「桜桃」と桜桃（さくらんぼの木）の季節であることにちなんで名づけられた。

3 次の「 」で示した漢字には、後に（ ）で示した部首が使われている。それぞれの漢字の意味を調べよう。

- (1) 海「岸」に出ると、「岬」にある灯台が見えた。□□（やま）
- (2) 老「朽」化した建物を、「本」格的に改装することにした。□□（き）
- (3) 早速、みんなで草「刈り」の仕事を「分」担した。□□（かたな）
- (4) この「泉」には、清「浄」な水がわいている。□□（みず）
- (5) 平「素」は無「縁」のフランス語を習い始めた。□□（いと）
- (6) 主人公の「哀」れな運命に「同」情を寄せる。□□（くち）
- (7) この「仁」王像には、昔の「人」の技術が生きている。□□（ひと）
- (8) 彼の口から機関「銃」のように言葉が飛び出した。それはどれも「鋭」い指摘だった。□□（かね）

5 次の「 」で示した漢字は、後の（ ）内の漢字と同じ訓読みをする。どちらの漢字を使うのが適切か。

- (1) 御飯が「む」れるのを待つ。□□（「蒸」気 □□「群」集）
- (2) 強引に彼女を代表者に「お」した。□□（「推」薦する □□「押」印する）
- (3) 作家が本を「あらわ」す。□□（「著」者 □□「表」現）
- (4) はさみで布地を「た」つ。□□（気「絶」 □□「裁」断）
- (5) 交差点で多くの人が行き「か」う。□□（「交」通 □□購「買」部）
- (6) 話題の健康法の特集ページを「さ」く。□□（花が「咲」く □□時間を「割」く）

資料9 体験を伝え合おう（1年 p.171）


□□□□うれしかったこと
□□小学校のときに転校した友達から手紙が来たこと。


□□□□くやしかったこと
□□クラス別リレーで、バトンを受け損なったこと。



□□□□かなしかったこと
□□飼っていた子猫が家出してしまったこと。

□□□□楽しかったこと
□□合唱コンクールの前日、みんなで朝早く来て練習したこと。

資料10 漢字6 漢字の成り立ちと意味（1年 p.175 1.11）

□□漢字の成り立ちには、次の四種類がある。
□□(1)象形□□物の形を象って、その物を表したもの。
□□(例) **日** **山** **川**
ニ (ひ) シ (やま) セ (かわ)
木 **鳥** など
キ (き) ト (とり)

□□(2)指事□□絵では示しにくい事柄を、抽象的な記号やその組み合わせの約束によって表したもの。
□□(例) **一** **二**
ヒ (ひと) ニ (ふた)
上 **下** など
ジョウ (うえ) カ (した)

□□(3)会意□□二つ以上の字を組み合わせ、新しい意味を示したもの。
□□(例) **林** **鳴** など
リン (はやし) マイ (なく)

資料11 漢字6 漢字の成り立ちと意味（1年 p.176上）

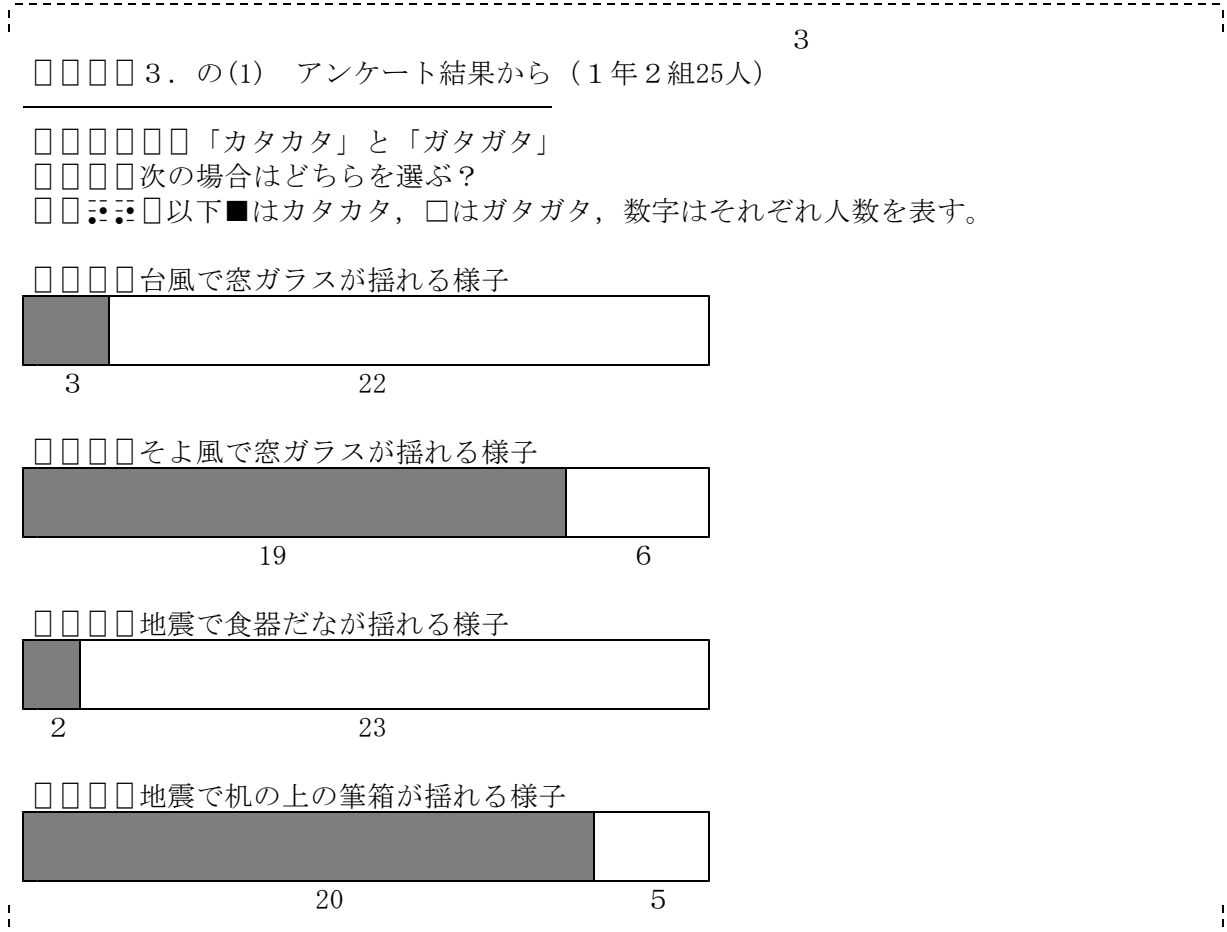
2 次の漢字はそれぞれ後に示した成り立ちである。それぞれの漢字の意味を調べてみよう。

- 「くわ」ばたけ□（象形）
- 「ホウ」コウザイ□（形声）
- 「ア」ネットアイ□（象形）
- ボク「トウ」□（象形）
- 「シン」リン□（会意）
- 「ニョウ」ケンサ□（会意）
- 「ホン」モノ□（会意）

資料12 生活と言葉（1年 p.181）

□□□□（配付資料の例）

	1
□□□□音の強弱を表す擬声語 担当（石川□□田中□□森□□山田）□□	
□□□□□□目次	
□□1□□研究動機□（田中）	2
□□2□□研究の方法□（森）	2
□□3□□研究の内容	
□□1. □アンケート結果から□（石川）	3
□□2. □用例□（田中）	4
□□4□□考察□（全員）	5
□□5□□感想□（全員）	5
□□6□□参考文献・参考資料□（山田）	5



資料13（1年 p.207～210）

漢字に親しもうー小学校6年生で学習した漢字

ここには小学校6年生で学習した漢字についての練習問題を示した。中学校3年間で正確な知識を身に付けよう。

- 巻く
- 染める
- 疑う
- 痛い
- 並べる

4 次の熟語は同じ偏をもつ二字の漢字でできている。へんの意味を確認し、熟語の意味を調べよう。

- (1) 満潮 (さんずい)
- (2) 肺臓 (にくづき)
- (3) 源流 (さんずい)
- (4) 議論 (ごんべん)
- (5) 俳優 (にんべん)
- (6) 植樹 (きへん)
- (7) 地域 (つちへん)

5 次の四字の漢字でできた熟語の意味を考えよう。

- (1) 秘密厳守
- (2) 臨時休業
- (3) 就職活動
- (4) 皇后陛下
- (5) 聖人君子
- (6) 公私混同

6 「 」で示した部分がつくことによって、熟語全体がどのように変化したか調べてみよう。

- (1) 彼は組織の中では、主流「派」だ。
- (2) エジソンは、知識「欲」がさかんな子供だった。
- (3) 大阪城は見事な天守「閣」で有名だ。
- (4) 地球は、太陽「系」に属している。
- (5) 参政「権」は憲法で保障されている。
- (6) 困難な状況の中、打開「策」を見いだすことができた。
- (7) 竹取物語の現代語「訳」を読む。
- (8) 消防「署」を見学する。
- (9) 新聞の読者「層」を調べる。
- (10) 街路「樹」を植える。

7 次の各組の「 」で示した部分は同じ漢字である。それぞれの熟語の意味を調べよう。

- (1) 書「簡」 「簡」単
- (2) 「筋」肉 道「筋」
- (3) 「呼」吸 点「呼」
- (4) 皮「革」 「革」命
- (5) 演「劇」 「劇」場
- (6) 「紅」白 口「紅」
- (7) 「骨」折 背「骨」
- (8) 「宅」地 帰「宅」
- (9) 以「降」 「降」雨
- (10) 「激」流 過「激」
- (11) 正「誤」 「誤」解
- (12) 「勤」務 欠「勤」

「硫黄」 □ ● ● ● □ 「りゅう」 (いおう) □ □ 「こう □ おう (き □ こ)」
「意気地」 □ ● ● ● □ 「い」 (こころ) □ □ 「き □ け」 (「きもち」の「き」) □ □ 「ち □ じ」
「一言居士」 □ ● ● ● □ 漢数字の「1」 □ □ 「げん □ ごん (い ● ● ● う □ こと)」 □ □ 「きよ (い ● ● ●
る)」 □ □ 「し」 (さむらい)
「田舎」 □ ● ● ● □ 「でん (た)」 □ □ 「しゃ」 (いえ)
「息吹」 □ ● ● ● □ 「そく (いき)」 □ □ 「すい (ふ ● ● ● く)」
「海原」 □ ● ● ● □ 「かい (うみ)」 □ □ 「げん (はら)」
「乳母」 □ ● ● ● □ 「にゅう (ちち □ ち)」 □ □ 「ぼ (はは)」
「浮気」 □ ● ● ● □ 「ふ (う ● ● ● く □ う ● ● ● かれる □ う ● ● ● かぶ □ う ● ● ● かべる)」 □ □ 「き □ け」
(「きもち」の「き」)
「浮」 つく □ ● ● ● □ 「ふ (う ● ● ● く □ う ● ● ● かれる □ う ● ● ● かぶ □ う ● ● ● かべる)」
「笑顔」 □ ● ● ● □ 「しょう (わら ● ● ● う □ え ● ● ● む)」 □ □ 「がん (かお)」
お「母」さん □ ● ● ● □ 「ぼ (はは)」
「おじ」 □ ● ● ● □ 「しゅく」 (父母の弟) または「はく」 (父母の兄) □ □ 「ふ (ちち)」
お「父」さん □ ● ● ● □ 「ふ (ちち)」
「大人」 □ ● ● ● □ 「だい □ たい (おお □ おお ● ● ● きい □ おお ● ● ● いに)」 □ □ 「じん □ にん (ひと)」
「乙女」 □ ● ● ● □ 「おつ」 (わかい) □ □ 「じょ □ によ □ によ (おんな □ め)」
「おば」 □ ● ● ● □ 「しゅく」 (父母の妹) または「はく」 (父母の姉) □ □ 「ぼ (はは)」
お「巡」りさん □ ● ● ● □ 「じゅん (めぐ ● ● ● る)」
お「神酒」 □ ● ● ● □ 「しん □ じん (かみ □ かん □ こう)」 □ □ 「しゅ (さけ □ さか)」
「おもや」 □ ● ● ● □ 「ぼ (はは)」 □ □ 「おく (や)」 または「か □ け (いえ □ や)」
「神楽」 □ ● ● ● □ 「しん □ じん (かみ □ かん □ こう)」 □ □ 「がく □ らく (たの ● ● ● しい □ たの ● ● ●
しむ)」
「河岸」 □ ● ● ● □ 「か (かわ)」 □ □ 「がん (きし)」
「風邪」 □ ● ● ● □ 「ふう □ ふ (かぜ □ かざ)」 □ □ 「じゃ」 (「じゃま」の「じゃ」)
「仮名」 □ ● ● ● □ 「か □ け (かり)」 □ □ 「めい □ みょう (な)」
「蚊帳」 □ ● ● ● □ 「か (こんちゅう)」 □ □ 「ちょう (とぼり)」
「為替」 □ ● ● ● □ 「い」 (「じんいてき」の「い」) □ □ 「たい (か ● ● ● える □ か ● ● ● わる)」
「昨日」 □ ● ● ● □ 「さく」 (「さくねん」の「さく」) □ □ 「にち □ じつ (ひ □ か)」
「今日」 □ ● ● ● □ 「こん □ きん (いま)」 □ □ 「にち □ じつ (ひ □ か)」
「果物」 □ ● ● ● □ 「か (は ● ● ● たす □ は ● ● ● てる □ は ● ● ● て)」 □ □ 「ぶつ □ もつ (もの)」
「玄人」 □ ● ● ● □ 「げん」 (「げんまい」の「げん」) □ □ 「じん □ にん (ひと)」
「今朝」 □ ● ● ● □ 「こん □ きん (いま)」 □ □ 「ちょう (あさ)」
「景色」 □ ● ● ● □ 「けい」 (「ふうけい」の「けい」) □ □ 「しょく □ しき (いろ)」
「心地」 □ ● ● ● □ 「しん (こころ)」 □ □ 「ち □ じ」
「今年」 □ ● ● ● □ 「こん □ きん (いま)」 □ □ 「ねん (とし)」
「早乙女」 □ ● ● ● □ 「そう □ さつ (はや ● ● ● い □ はや ● ● ● まる □ はや ● ● ● める)」 □ □ 「おつ」 (わ
かい) □ □ 「じょ □ によ □ によ (おんな □ め)」
「雑魚」 □ ● ● ● □ 「ざつ □ ぞう」 □ □ 「ぎょ (うお □ さかな)」
「栈敷」 □ ● ● ● □ さん (床板のための横木) □ □ 「ふ (し ● ● ● く)」
「差」し「支」える □ ● ● ● □ 「さ (さ ● ● ● す)」 □ □ 「し (ささ ● ● ● える)」
「五月晴」れ □ ● ● ● □ 漢数字の「5」 □ □ 「げつ □ がつ (つき)」 □ □ 「せい (は ● ● ● れる □ は ● ● ●
らす)」
「早苗」 □ ● ● ● □ 「そう □ さつ (はや ● ● ● い □ はや ● ● ● まる □ はや ● ● ● める)」 □ □ 「びょう (な
え □ なわ)」
「五月雨」 □ ● ● ● □ 漢数字の「5」 □ □ 「げつ □ がつ (つき)」 □ □ 「う (あめ □ あま)」
「時雨」 □ ● ● ● □ 「じ (とき)」 □ □ 「う (あめ □ あま)」
「竹刀」 □ ● ● ● □ 「ちく (たけ)」 □ □ 「とう (かたな)」
「芝生」 □ ● ● ● □ 「しば」 (「しばい」の「しば」) □ □ 「せい □ しょう (い ● ● ● きる □ い ● ● ● か
す □ い ● ● ● ける □ う ● ● ● まれる □ う ● ● ● む □ お ● ● ● う □ は ● ● ● える □ は ● ● ● やす □ き □ なま)」
「清水」 □ ● ● ● □ 「せい □ しょう (きよ ● ● ● い □ きよ ● ● ● まる □ きよ ● ● ● める)」 □ □ 「すい (み
ず)」

「三味線」 □ ● ● ● 漢数字の「3」 □ □ 「み (あじ □ あじ ● ● ● わう)」 □ □ 「せん」 (「ちよくせんきより」の「せん」)
「砂利」 □ ● ● ● 「さ □ シャ (すな)」 □ □ 「り (き ● ● ● く)」
「数珠」 □ ● ● ● 「すう □ す (かず □ かぞ ● ● ● える)」 □ □ 「しゅ (たま)」
「上手」 □ ● ● ● 「じょう □ しょう (うえ □ うわ □ かみ □ あ ● ● ● げる □ あ ● ● ● がる □ のぼ ● ● ● せる □ のぼ ● ● ● す)」 □ □ 「しゅ (て □ た)」
「白髪」 □ ● ● ● 「はく □ びやく (しろ □ しろ □ しろ ● ● ● い)」 □ □ 「はつ (かみ)」
「素人」 □ ● ● ● 「そ □ す」 □ □ 「じん □ にん (ひと)」
「師走」 □ ● ● ● 「し」 (「びようし」の「し」) □ □ 「そう (はし ● ● ● する)」
「数寄屋」 □ ● ● ● 「すう □ す (かず □ かぞ ● ● ● える)」 □ □ 「き (よ ● ● ● せる □ よ ● ● ● せる)」 または「き」 (「きみょうな」の「き」) □ □ 「おく (や)」
「相撲」 □ ● ● ● 「そう □ しょう (あい)」 □ □ 「ぼく」 (「だぼく」の「ぼく」)
「草履」 □ ● ● ● 「そう (くさ)」 □ □ 「り (は ● ● ● く)」
「山車」 □ ● ● ● 「さん (やま)」 □ □ 「しゃ (くるま)」
「太刀」 □ ● ● ● 「たい □ た (ふと ● ● ● い □ ふと ● ● ● する)」 □ □ 「とう (かたな)」
「立」 ち「退」 ぐ □ ● ● ● 「りつ □ りゅう (た ● ● ● つ □ た ● ● ● てる)」 □ □ 「たい (しりぞ ● ● ● く □ しりぞ ● ● ● ける)」
「七夕」 □ ● ● ● 漢数字の「7」 □ □ 「せき (ゆう)」
「足袋」 □ ● ● ● 「そく (あし □ た ● ● ● する □ た ● ● ● する □ た ● ● ● す)」 □ □ 「たい (ふくろ)」
「稚児」 □ ● ● ● 「ち」 (「ようちえん」の「ち」) □ □ 「じ □ に」
「一日」 □ ● ● ● 漢数字の「1」 □ □ 「にち □ じつ (ひ □ か)」
「築山」 □ ● ● ● 「ちく (きず ● ● ● く)」 □ □ 「さん (やま)」
「梅雨」 □ ● ● ● 「ばい (うめ)」 □ □ 「う (あめ □ あま)」
「凸凹」 □ ● ● ● 「とつ」 (でっぱり) □ □ 「おう」 (へこみ)
「手伝」 う □ ● ● ● 「しゅ (て □ た)」 □ □ 「でん (つた ● ● ● わる □ つた ● ● ● える □ つた ● ● ● う)」
「伝馬船」 □ ● ● ● 「でん (つた ● ● ● わる □ つた ● ● ● える □ つた ● ● ● う)」 □ □ 「ば (うま □ ま)」 □ □ 「せん」
(ふね □ ふな)
「投網」 □ ● ● ● 「とう (な ● ● ● げる)」 □ □ 「もう (あみ)」
「十重二十重」 □ ● ● ● 漢数字の「10」 □ □ 「じゅう □ ちょう (え □ おも ● ● ● い □ かさ ● ● ● ねる □ かさ ● ● ● なる)」 □ □ 漢数字の「20」 □ □ 「じゅう □ ちょう (え □ おも ● ● ● い □ かさ ● ● ● ねる □ かさ ● ● ● なる)」
「読経」 □ ● ● ● 「どく □ とく □ とう (よ ● ● ● む)」 □ □ 「けい □ きょう (へ ● ● ● する)」
「時計」 □ ● ● ● 「じ」 (とき) □ □ 「けい (はか ● ● ● する □ はか ● ● ● らう)」
「友達」 □ ● ● ● 「ゆう (とも)」 □ □ 「たつ」 (「たつじん」の「たつ」)
「仲人」 □ ● ● ● 「ちゅう (なか)」 □ □ 「じん □ にん (ひと)」
「名残」 □ ● ● ● 「めい □ みょう (な)」 □ □ 「ざん (のこ ● ● ● する □ のこ ● ● ● す)」
「雪崩」 □ ● ● ● 「せつ (ゆき)」 □ □ 「ほう (くず ● ● ● れる □ くず ● ● ● す)」
「兄」 さん □ ● ● ● 「けい □ きょう (あに)」
「姉」 さん □ ● ● ● 「し (あね)」
「野良」 □ ● ● ● 「や (の)」 □ □ 「りょう (よ ● ● ● い)」
「祝詞」 □ ● ● ● 「しゅく □ しゅう (いわ ● ● ● う)」 □ □ 「し」 (「けいようし」の「し」)
「博士」 □ ● ● ● 「はく □ ばく」 (「はくぶつかん」の「はく」) □ □ 「し」 (「ぶしどう」の「し」)
「はたち」 □ ● ● ● 漢数字の「20」 □ □ または漢数字の「20」と □ 「さい □ せい」
「二十日」 □ ● ● ● 漢数字の「20」 □ □ 「にち □ じつ (ひ □ か)」
「波止場」 □ ● ● ● 「は (なみ)」 □ □ 「し (と ● ● ● まる □ と ● ● ● める)」 □ □ 「じょう (ば)」
「一人」 □ ● ● ● 漢数字の「1」 □ □ 「じん □ にん (ひと)」
「日和」 □ ● ● ● 「にち □ じつ (ひ □ か)」 □ □ 「わ □ お (やわ ● ● ● らぐ □ やわ ● ● ● らげる □ なご ● ● ● む □ なご ● ● ● やか)」
「二人」 □ ● ● ● 漢数字の「2」 □ □ 「じん □ にん (ひと)」
「二日」 □ ● ● ● 漢数字の「2」 □ □ 「にち □ じつ (ひ □ か)」
「吹雪」 □ ● ● ● 「すい (ふ ● ● ● く)」 □ □ 「せつ (ゆき)」

「下手」 □ ● ● ● □ 「か □ げ (した □ しも □ もと □ さ □ ● ● ● げる □ さ □ ● ● ● がる □ くだ □ ● ● ● する □ くだ □ ● ● ● する □ お □ ● ● ● ろす □ お □ ● ● ● りする)」 □ □ 「しゅ (て □ た)」
「部屋」 □ ● ● ● □ 「ぶ」 (「ぶひん」の「ぶ」) □ □ 「おく (や)」
「迷子」 □ ● ● ● □ 「めい (まよ □ ● ● ● う)」 □ □ 「し □ す (こ)」
「真っ赤」 □ ● ● ● □ 「しん (ま)」 □ □ 「せき □ しゃく (あか □ あか □ ● ● ● い □ あか □ ● ● ● らむ □ あか □ ● ● ● らめる)」
「真っ青」 □ ● ● ● □ 「しん (ま)」 □ □ 「せい □ しょう (あお □ あお □ ● ● ● い)」
「土産」 □ ● ● ● □ 「ど □ と (つち)」 □ □ 「さん (う □ ● ● ● む □ う □ ● ● ● まれる □ うぶ)」
「息子」 □ ● ● ● □ 「そく (いき)」 □ □ 「し □ す (こ)」
「眼鏡」 □ ● ● ● □ 「がん □ げん (まなこ)」 □ □ 「きょう (かがみ)」
「猛者」 □ ● ● ● □ 「もう」 (「もうれつな」の「もう」) □ □ 「しゃ (もの)」
「紅葉」 □ ● ● ● □ 「こう □ く (べに □ くれぬい)」 □ □ 「よう (は)」
「木綿」 □ ● ● ● □ 「ぼく □ もく (き □ こ)」 □ □ 「めん (わた)」
「最寄」り □ ● ● ● □ 「さい (もっと □ ● ● ● も)」 □ □ 「き (よ □ ● ● ● する □ よ □ ● ● ● せる)」
「八百長」 □ ● ● ● □ 漢数字の「800」 □ □ 「ちょう (なが □ ● ● ● い)」
「八百屋」 □ ● ● ● □ 漢数字の「800」 □ □ 「おく (や)」
「大和」 □ ● ● ● □ 「だい □ たい (おお □ おお □ ● ● ● きい □ おお □ ● ● ● いに)」 □ □ 「わ □ お (やわ □ ● ● ● らぐ □ やわ □ ● ● ● らげる □ なご □ ● ● ● む □ なご □ ● ● ● やか)」
「浴衣」 □ ● ● ● □ 「よく (あ □ ● ● ● びる □ あ □ ● ● ● びせる)」 □ □ 「い (ころも)」
「行方」 □ ● ● ● □ 「こう □ ぎょう □ あん (い □ ● ● ● く □ ゆ □ ● ● ● く □ おこな □ ● ● ● う)」 □ □ 「ほう (かた)」
「寄席」 □ ● ● ● □ 「き (よ □ ● ● ● する □ よ □ ● ● ● せる)」 □ □ 「せき」 (「せき」をたつの「せき」)
「若人」 □ ● ● ● □ 「じゃく □ にやく (わか □ ● ● ● い □ も □ ● ● ● しくわ)」 □ □ 「じん □ にん (ひと)」

資料18 漢字1 同じ訓をもつ漢字 (2年 p.29)

1 次の(1)～(12)の「 」で示した部分は、()の中のどの意味の漢字を使うのが正しいだろうか。

- (1) ここ数年で平均寿命が甚だしく「の」びた。 □ □ (時間が長引く □ □ 長くなる)
- (2) 容器に一株だけ白菜を「つ」けた。 □ □ (つけものにする □ □ 表面にびたりと触れて離れない)
- (3) 大水で堤が決壊し、交通手段が「た」たれた。 □ □ (縦にまっすぐになる □ □ つながりやを途中で切る)
- (4) お蔵入りになった案を再考し、会議に「はか」る。 □ □ (ものの数を数える □ □ 相談する □ □ 深さや面積や長さなどをはかる)
- (5) 休憩時間に将棋を「さ」す。 □ □ (駒を進める □ □ 入り込む)
- (6) 新聞に、わたしの書き初めが「の」った。 □ □ (記載される □ □ 上に位置を占める)
- (7) 倫理学を「きわ」めた学者。 □ □ (深く追究して本質をつかむ □ □ 極限に達する)
- (8) 虫に刺された部分を皮膚科で「み」てもらおう。 □ □ (認識する □ □ 診察する)
- (9) かえでの紅と菊の黄が秋の日差しに「は」える。 □ □ (美しく輝く □ □ 育つ)
- (10) 草木が盛んに「お」いしげっている。 □ □ (年をとる □ □ はえのびる)
- (11) 勝ち戦にはほど遠く、大差で「やぶ」れた。 □ □ (負ける □ □ 形がこわれる)
- (12) 厚意を無にしたことを、彼に「あやま」った。 □ □ (間違える □ □ わびる)

2 次の(1)～(5)の「 」で示した部分の意味の違いを考えよう。

- (1) 来たる八日に、母国に帰るアン先生を「おくる」会が行われる。
友人の誕生日のお祝いに小銭入れを「おくる」。
- (2) 厳かに式を「あげる」。
弓道の腕を「あげる」。

- (3)
鉄瓶の中のお湯は、沸騰していて「あつい」。
夏休み中、特に「あつい」日には、専らプールに通っていた。
- (4)
医者が患者に対して責任を「おう」。
探偵が、犯人を「おう」。
- (5)
彼の任を「とく」のは、時期尚早と思われる。
法律学の概論を「とく」。

資料19 (2年 p.32)

□□□□ (聞き取りメモの例)

□□□□お知らせを作る (明日まで)
□□来週□日曜□28日□□雨でもある
□□集合□9時頃□□訂正□□
□□(介護)□体操服で行く
□□老人ホーム□□いこいの里
□□集合場所□□学校の玄関前
□□欠席の時□□学校にTEL (□□□□□□□□□□□□□□□□)
□□持ち物□□お弁当とお茶□□「訂正」□□お茶はいらない□□本とリコーダー (必要な人だけ)
□□午後3時□□終わる

□□□□ (お知らせの例)

□□□□ボランティア活動のお知らせ
□□ボランティア活動の予定が下記のように決まりました。
□□□□□□記
□□1. 日時□□□□月□日 (○) □□雨天決行
□□□□午前□時□分集合
□□□□午後□時ごろまで
□□2. 集合場所□□□□
□□3. 行き先□□□□
□□4. 服装□□□□
□□5. 持ち物□□□□
□□6. 都合が悪くなった場合の連絡先□□□□

以上□□

資料20 (2年 p.39)

□□□□ (種割り表)

□□□□以下の表は、「種があり割る」を1, 「種がない」を2, 「種があるのに割らない」を3とする。

	(アブラヤシ)	(クーラ)	(パンダ)
ボツソウ	1	2	2
A	3	2	2

B	1	1	3
C	2	1	1

資料21 漢字2 同じ音をもつ漢字（2年 p.46～47）

同じ音をもつ漢字は多い。例えば、「カイ」「ホー」という音をもつ漢字を組んで表してみよう
 それぞれ「ひらく・とく・あう・こころよい・まわる・うみ」「はなつ・むくいる・かた・みね」
 など多くある。これら二つの音を結びつけた「カイホウ」を辞書で調べると次のような意味が載っ
 ていた。

- 開け放すこと
- 解き放つこと
- 会の活動などを報告する文書
- 病気などがよくなること

このような同じ音で意味の異なる語を、「同音異義語」という。

1 次の文の「 」で示した熟語の意味を調べよう。

(1)

さまざまな分野に「カンシン」を示す。
 彼の善行にはいつも「カンシン」する。
 値下げして客の「カンシン」を買う。

(2)

世界の「タイセイ」に通じる。
 留学生を受け入れる「タイセイ」を整える。
 平均台の上で「タイセイ」を保つのは難しい。

2 次の文の「 」で示した熟語の意味を、後のア.～イ.の中から選ぼう。

(1)

- 一瞬の出来事に、驚きの「カンセイ」が揚がった。
- 子供の豊かな「カンセイ」を育てる。
- ア. 感受性
- イ. さげび声

(2)

- 戦争の「ギセイ」者を追悼する。
- 日本語にはたくさんの「ギセイ」語がある。
- ア. 音を言葉で表すこと
- イ. 巻き添えになって被害にあうこと

(3)

- 収入と支出の「キンコウ」が保たれている。
- 大都市の「キンコウ」に住む。
- ア. つりあい
- イ. 都市の郊外

(4)

- 公園の「カダン」を見ると、心が朗らかになる。
- 物事を「カダン」に処理する。
- ア. 花を植えてあるところ
- イ. 思い切ってするさま

(5)

- 自覚「ショウジョウ」がないまま病気が進んだ。
- 試合に優勝し、「ショウジョウ」をいただく。
- ア. よい成績をほめそれを記したもの
- イ. 病気の状態

(6)

- 好きな詩を「アンショウ」する。
- 外交が「アンショウ」に乗り上げたことを、遺憾に思う。
- ア. そらんじる
- イ. 海中に隠れて見えない岩

(7)

- 戦争で人心が「コウハイ」した。
- 主将が、部活動の「コウハイ」を指導している。
- ア. 同じ学校などに後から入った人
- イ. あれはてること

(8)

- 新知識を競って「セッシュ」する。
- インフルエンザの予防「セッシュ」を受ける。
- ア. 取り入れて自分のものとする
- イ. ワクチンなどを人体に加えること

(9)

- コートは選手にとって「シンセイ」な場所だ。
- ここに砂利を敷くためには、適宜「シンセイ」書が要る。
- ア. 願い出ること
- イ. 尊いこと

(10)

- 宗匠について茶道の「キソ」を学ぶ。
- 検察官が「キソ」する。
- ア. 訴えを起こすこと
- イ. 土台となるもの

(11)

- 偏狭な考え方はやめ、「カンヨウ」になろう。
- 「カンヨウ」植物を育てる。
- ア. 心が広いこと
- イ. 葉を鑑賞すること

(12)

- 母親のタイナイで、子どもが健やかに育っている。
- タイナイには胃や腸などの臓器がある。
- ア. 子のやどる母体
- イ. 身体の内部

(13)

- ビールの「ゲンリョウ」の一つは麦芽だ。
- 試合前のボクサーが「ゲンリョウ」する。
- ア. 体重を減らすこと
- イ. もとになる材料

(14)

- その恐喝事件は社会に「ハモン」を投げかけた。
- 弟子が、師から「ハモン」された。
- ア. 師弟の関係を絶つこと
- イ. 影響

(15)

- 会場の「チョウシュウ」から、詠嘆の声が漏れた。
- 会員から会費を「チョウシュウ」する。
- ア. 聞いている人々
- イ. 集めること

(16)

- 風雨に「シンショク」される。
- 「シンショク」を忘れて努力する。
- ア. 寝たり食べたりすること
- イ. 地表面を掘り削る作用

3 次の文の「 」で示した熟語の意味を、後のア. ~ウ. の中からそれぞれ一つずつ選ぼう。

(1) 半年の「キカン」を経て、宇宙飛行士は地球に「キカン」した。

- ア. もどること
- イ. ある働きをする組織や装置
- ウ. ある時期から他の時期までの間

(2) 「ケイジ」板に、結婚などの「ケイジ」が示されている。

- ア. おめでたいできごと
- イ. 目立つところに示すこと
- ウ. 時間を計ること

(3) 無味「カンソウ」な話だったので、なんの「カンソウ」ももたなかった。

- ア. 心に浮かんだ思い
- イ. 乾いていること
- ウ. 曲と曲の間の演奏

(4) 整然と「コウシン」する選手の中には、世界記録を「コウシン」した者もいた。

- ア. 隊を組んで歩くこと
- イ. 通信をとりかわすこと
- ウ. 新しくすること

(5) 「セイヤク」会社に入社するため、「セイヤク」書に署名する。

- ア. 自由に活動させないこと
- イ. 薬を作ること
- ウ. 誓って約束すること

(6) 「シンチョウ」が伸びたので制服を「シンチョウ」した。

- ア. 新しく調えること
- イ. 深みがあること
- ウ. 背の高さ

資料22 (2年 p.49)

□□□□ (企画の例)

□□□□以下、調べる人物を1. 伝える内容を2. 情報の集め方を3. とする。

□□□□ (例1)

- 1. 地域の歌人
- 2. 歌人の一生□□短歌の背景・・・
- 3. 歌集□□人物事典・・・

□□□□ (例2)

- 1. 発明家
- 2. 何を発明したか□□発明時のエピソード・・・
- 3. 関連図書や科学雑誌□□百科事典・・・

□□□□ (例3)

□□ 1. ○○中学出身のサッカー選手

□□ 2. 中学時代から現在のチームに至るまでの経歴□□中学校時代の様子・・・

□□ 3. 著書□□新聞記事・・・

□□□□ (例4)

□□ 1. ○○時代の武将

□□ 2. どのような時代の人か□□活躍したこと・・・

□□ 3. 歴史事典□□便覧・・・

資料23 (2年 p.50)

□□□□ (4ページのパンフレットの割り付けの例)

□□□□ (1ページ目 表紙)

□□パンフレットのタイトル, 自分の氏名などを入れる。余白が多い場合は, いろいろな点の組み合わせでかたどってもよい。

□□□□ (2ページ目)

□□ 1. 略歴 (年表の形にする)

□□□□ (3ページ目)

□□ 2. アンケート結果 (コメントも入れたい)

□□ 3. 「○○」について

□□□□ (4ページ目 裏表紙)

□□ 4. 名前の由来 (本からまとめる)

□□ 5. まとめ

□□ 6. 参考文献

資料24 (2年 p.52)

□□□□ (パンフレットの例)

□□□□ (1ページ目 表紙)

□□□□□□あの『坊っちゃん』の作者

□□□□□□ 夏目漱石の素顔に迫る!

2年2組 早川大地□□

□□□□ (2ページ目)

□□□□ 1 漱石の一生

□□1867 (慶應3) □□0歳□□東京に生まれる。

□□1890 (明治23) □□23歳□□帝国大学英文科に入学し, 正岡子規らと交流する。

・・・

□□1916 (大正5) □□49歳□□死去

□□□□ (3ページ目)

□□□□ 2 クラスのみんなにききました□□□□どんな作品を知っていますか? □ (ひと言紹介付き)

□□『坊っちゃん』(24人) □□□□おすすめ。元気が出ます!

□□『吾輩は猫である』(16人) □□□□猫から人を見てみると・・・。

□□『夢十夜』(9人) □□□□不思議の世界へ御案内。

□□□□ 3 『坊っちゃん』の登場人物

□□愛媛県松山の・・・

□□坊っちゃんとともに戦う山嵐。

□□坊っちゃんのおき理解者、清。

□□□□ (4 ページ目 裏表紙)

□□□□ 4 漱石はがんこ者？

□□漱石の本名は・・・

□□□□ 5 調べてみて

□□漱石は・・・

□□□□ 6 参考文献

□□『○○文学辞典』 ○○社 ○○年

□□『漱石○○』 ○○著 ○○社 ○○年

資料25 (2年 p.74)

□□□□ (構想メモの例)

□□□□□□『2年間の休暇』□□ジュール・ヴェルヌ作

□□□□ジュール・ヴェルヌ (1828～1905)

□□フランスの作家

□□作品□□□□『2年間の休暇』□□『80日間世界一周』

□□□□あらすじ□□

□□あらしの中、15人の少年・・・

・・・

□□□□ (紹介カードの例)

□□□□□□15人の少年たちを乗せた船は・・・

宮本修一□□

□□□□『2年間の休暇』□□ジュール・ヴェルヌ作

□□ジュール・ヴェルヌ□□□□1828～1905、フランスの作家、『80日間世界一周』などの作品がある。

□□1. 物語は15人の少年たちを乗せた船が漂流するところから始まる。

□□2. 「大好き□□ブリアン」□□□□15人の中で、僕はリーダー的存在のブリアンがお気に入り。

□□3. だれでも16人目の仲間になって、読み進めていくことができる1冊です。

資料26 (2年 p.95)

□□□□□□国立国語研究所『日本言語地図』をもとにしたもの

□□□□ (「捨てる」の方言分布)

□□すてる、すつるなど□□□□北海道日本海側地域の一部、岩手県の一部、関東甲信越地方の一部、新潟県佐渡地方、伊豆大島、北陸東海地方の一部、滋賀県の一部、和歌山県沿岸部、淡路島の一部、兵庫県日本海側地域の一部、中国地方、愛媛県、高知県、徳島県の一部、福岡県の一部、熊本県山間部の一部、対馬・五島列島の一部

- うしつる □□■■■■佐賀県，長崎県，熊本県，大分県・宮崎県の一部，福岡県有明海沿岸地域の一部
- うっする □□■■■■鹿児島県，宮崎県・大分県・長崎県の一部
- していゆん □□■■■■沖縄県
- ほーる，ほるなど □□■■■■石川県能登地方の一部，福井県・三重県・和歌山県・京都府・兵庫県の一部，淡路島の一部，香川県，徳島県の一部
- ほーかる，ほかるなど □□■■■■北陸東海地方の一部，福岡県の一部
- ほーかす，ほかすなど □□■■■■近畿地方，福岡県の一部
- なげる，ぶんなげるなど □□■■■■北海道，東北地方，福井県の一部
- うっちやる □□■■■■関東地方，静岡県・愛知県の一部
- ぶちやる（ぶちやる） □□■■■■新潟県，長野県，群馬県，山梨県，静岡県の一部

資料27 (2年 p.102)

□□□□ (絵コンテの例)

(提示する資料)

(発表の流れ)

ありがとう

- 1. 選んだ言葉の紹介 (木島) □ (30秒)
- 資料1を提示
- 「ありがとう」の部分は木島さんの合図で声をそろえる。

「言葉選びの基準」
温かくて明るい言葉
言われてうれしい言葉

- 2. 言葉選びの基準 (里見・小林) □ (3分)
- 資料2を提示
- 「未来に残したい」という観点から考えた基準。

友達に言われてうれしかった言葉



がんばって

- 3. 根拠1 □□■■■■アンケート (野原) □ (3分)
- 資料3を提示
- 「友達に言われてうれしかった言葉」という点でアンケートを実施。
- 対象はクラスのみ。

「ありがとうはどこから来たか」
漢字で書くと「あ」り「が」と「う」めったにないこと

- 4. 根拠2 □□■■■■語源の説明 (木島) □ (3分)
- 資料4を提示
- ありがたし (めったにないこと) →ありがとうに。
- 万葉の昔から使われていた。

(資料なし)

□□□□ 5. 結び (里見) □ (30秒)
□□ 「では、最後に模範演技を。ありがとうございました。」
□□ 最後まで声をそろえる。

ありがたし - 「有り」は「ゆー」, 「かたし」は「なん」。

資料28 (2年 p.117)

- (源氏と平家の戦い)
□□ 1. 石橋山の戦い (1180年8月)
□□ 2. 富士川の戦い (1180年10月)
□□ 3. 倶利伽羅峠の戦い (1183年5月)
□□ 4. 宇治川の戦い (1184年1月)
□□ 5. 一ノ谷の戦い (1184年2月)
□□ 6. 屋島の戦い (1185年2月)
□□ 7. 壇の浦の戦い (1185年3月)

資料29 漢字4 漢字を分解して考える (2年 p.128)

1 次の(1)～(3)は、それぞれ二つの漢字をいくつかの部分に分け、同じ大きさにして並べ換えてある。例にならって、それらを後の漢字の中から探してみよう。

(例) 日 言 正 月 → 証 明
 ショウ メイ

(1) 反 木 失 金 → 鉄 板
 テツ パン

(2) 土 口 寸 十 → 古 寺
 フル デラ

(3) 言 立 里 舌 → 童 話
 ドウ リ

2 次のそれぞれの熟語例を読んで、意味を調べてみよう。

- (1) 「副」会長 「祝」福 「消」火栓 社会「福」祉 「削」除 近「況」
(2) 「侵」略 熱「湯」 「増」量 「浸」透圧 「僧」侶 運動「場」
(3) 「酢」酸 「伸」縮自在 世「紀」末 「配」達 「作」文 「紳」士の
(4) 「沖」合 「疲」労回復 閣「僚」 周「波」数 治「療」 「仲」裁
(5) 「逸」話 1週「間」 「唯」一行「進」 「晩」御飯 「問」題
(6) 「肝」心な 貯水「池」 運動「場」 発「汗」剂 胃「腸」病 「地」下鉄

3 次に示す各組のそれぞれの熟語の意味を調べてみよう。

- (1) 閲覧□□人間
(2) 素朴□□改札
(3) 工作□□詐取
(4) 補佐□□左右
(5) 謹啓□□勤勉
(6) 伯仲□□拍手
(7) 墓石□□出塁
(8) 判断□□伴奏
(9) 沸騰□□謄本
(10) 発憤□□古墳
(11) 赴任□□超越

資料33 (2年 p.179)

□□□□□□自然の物になった例

- (家の前にあるイチョウの木になる) (脚本風を書く)
- □□□□川村さんの家の前。イチョウの木のつぶやく声。 □□□□
- イチョウ □□ □□ わたしは、
- □□□□夕方。生け垣越しに . . . 見える。 □□ □□
- イチョウ □□ □□ □□ 長女の 来ます。 □□ (後略)

□□□□□□身近な物になった例

- (サッカーシューズになる) (物語風を書く)
- わしは (後略)

□□□□□□身近な人物になった例

- (後輩になる) (報道文風を書く)
- 1月23日午後3時半。 (後略)

□□□□□□生き物になった例

- (飼っている猫になる) (手紙風を書く)
- 拝啓 寒い日が続いていますが、 (後略)

資料34 漢字に親しもう (2年 p.211~214)

漢字に親しもう (小学校6年生で学習した漢字)

ここには小学校6年生で学習した漢字についての練習問題を示した。中学校3年間で正確な知識を身に付けよう。

1 次の各文について、「 」で示した語句の意味を調べてみよう。

- (1) この大通りは交通量が「キュウゲキ」に増えた。
- (2) 今日は学校の「ソーリツ」記念日だ。
- (3) 昔、妹と背比べをした跡が、今も柱に「キザマレテ」いる。
- (4) すべてを「ボウキヤク」する。
- (5) 今にも雨が降り出しそうな「ドンテン」だ。
- (6) 世界には成文化された「ケンポウ」のない国もある。
- (7) 試合のあと、その選手は「コーフン」気味にインタビューに応じた。
- (8) 兄は、「チョウリシノタマゴ」として、レストランで修行を積んでいる。
- (9) 世界には「タスウ」の宗教がある。
- (10) 戸は静かに「カイヘイ」するようにしよう。
- (11) 「シテン」を変えてみると、多くの発見があるものだ。
- (12) 交通規則を守らないと、事故を引き起こしてしまうことは「ヒッシ」だ。
- (13) 英和辞典を引きながら、「ホンヤク」した。
- (14) 派手に始まったわりには、あっけない「マクギレ」だった。
- (15) ここは、「オンセン」で有名な町だ。
- (16) 「ノキシタ」につららが垂れ下がっている。
- (17) 天気がいいのでシーツを三枚「センタク」した。
- (18) その件に関しては、「ソウバン」、決着がつくだろう。
- (19) 先生の「キジョウ」には、いつも家族の写真が置いてある。
- (20) 一人ずつ「ジコ」紹介をした。
- (21) 幼い日の一冊の本との出会いが、その後の私の人生を「ケッテイヅケタ」。

- (22) チーズやヨーグルトのような「ニューセイヒン」は、からだによいといわれる。
- (23) 転校してきた西山さんの「カンゲイカイ」は、とても盛り上がった。
- (24) 学校で、緑化運動を「スイシン」する。
- (25) 彼は「ソンザイカン」のある人物だ。
- (26) 『ゲルニカ』をかいたピカソはスペインの「チョメイ」な画家だ。
- (27) 発車「スンゼン」の電車で飛び乗るのは危ない。
- (28) 「ニチボツ」までには家に帰る。
- (29) 針金を使ってかごを「セイサク」する。
- (30) 厳しい寒さにも負けず、「レンジツ」マラソンをする。
- (31) 「ズノー」は絶えず使うことで発達する。
- (32) 大好きな詩を「ロードク」する。

2 次の文で「 」で示した部分は、後に示した()内の熟語に使われている漢字と間違えやすい。それぞれの漢字の意味を調べよう。また、()内の熟語を用いて短文を作ってみよう。

- (1) 母のお「トモ」をして病院に行く。(「キョウ」通)
- (2) 税金を「オサ」めるのは、国民の義務だ。(「シュ」業)
- (3) 真冬にしては「アタタ」かい日だった。(「オン」泉)
- (4) 池の水面に月が「ウツ」る。(「シャ」真機)
- (5) 会社に「ツト」める。(義「ム」)
- (6) 電車から「オ」りる。(落「カ」傘)
- (7) 努力の結果、成功を「オサ」める。(「チ」安)

3 次の各組の送り仮名の正しいものを選ぼう。また、それぞれの言葉で短文を作ってみよう。

- (1) 「誤」解 誤_ニ_ニる (ご) 誤_ニ_ニまる (ご)
- (2) 「従」業員 従_ニ_ニう (じゅー) 従_ニ_ニがう (じゅー)
- (3) 「危」険な 危_ニ_ニい (き) 危_ニ_ニない (き)
- (4) 「尊」敬 尊_ニ_ニい (そん) 尊_ニ_ニとい (そん)
- (5) 「探」訪 探_ニ_ニす (たん) 探_ニ_ニがす (たん)
- (6) 「補」充 補_ニ_ニう (ほ) 補_ニ_ニなう (ほ)

4 次の二字の熟語の意味を調べてみよう。

- (1) 特許
- (2) 仮装
- (3) 針路

5 次の各組の二字の熟語のしりとりから、それぞれの熟語の意味を調べてみよう。

- (1) 連盟 → 盟友 → 友情 → 情操 → 操作 → 作詞
- (2) 批判 → 評価 → 価値 → 値段 → 段階 → 階層

6 次の各組の語句の意味を調べよう。

- (1) 百科事典□□点字□□金貨
- (2) 警察署□□尊敬□□諸島
- (3) 展覧会□□転勤□□乱暴
- (4) 放課後□□訪問□□効果
- (5) 時刻表□□穀物□□標本
- (6) 裁判官□□返済□□看板

7 次の各組の「 」で示した部分は同じ漢字である。それぞれの熟語の意味を調べよう。

- (1) 面「接」□□「接」着□□「接」続□□直「接」
- (2) 星「座」□□「座」席□□「座」長□□上「座」
- (3) 検「討」□□「討」議□□「討」論□□追「討」
- (4) 清「純」□□「純」白□□「純」金□□単「純」

- (5)負「傷」□□「傷」害□□「傷」心□□中「傷」
- (6)保「障」□□「障」害□□「障」子□□故「障」
- (7)容「姿」□□「姿」勢□□「姿」態□□雄「姿」

8 次の各組の「 」で示した部分は字形の似た漢字である。「 」で示した部分に注意して、熟語の意味を調べよう。

- (1)「頂」点□□「預」金
- (2)思「考」(「こー」は考える) □□「孝」行(「こー」は父母を大切にすること)
- (3)運「賃」□□「貸」家(「かし」は貸すこと□□「や」は家)
- (4)操「縦」□□「従」順(「じゅー」はしたがう)
- (5)「鉦」石(「こー」はあらがね) □□「鋼」鉄(「こー」ははがね)
- (6)「簡」単(「かん」はてみじか) □□期「間」(一定の時期から一定の時期までの間)

資料35 (2年 p.221)

□□□□ (アンケート例)

□□□□学校図書館利用についてのアンケート
 □□□□回答の際には学年、組、性別をお書きください。

□□ 1 □□ 5月の一か月間に本を何冊借りましたか。

□□□□ア。 0冊

□□□□イ。 1冊

□□□□ウ。 2冊

□□□□エ。 3冊以上

□□ 2 □□本を読むのは好きですか。

□□□□ア。 とても好き

□□□□イ。 好き

□□□□ウ。 どちらともいえない

□□□□エ。 あまり好きではない

□□□□オ。 好きではない

□□ (中略)

□□ 6 □□どんな種類の本が図書館にあるとよいと思いますか。次から二つ選んでください。

□□□□ア。 物語・小説

.....

□□ 7 □□図書館をもっと活性化させるには、どうすればよいか、御自由にお書きください。

御協力、ありがとうございました。

資料36 (2年 p.222~223)

- 1. イラストを入れて説明する。
- 2. 実際の場面や様子を写した写真を入れる。
- 3. 表にまとめる
- 4. グラフにまとめる
- 伝える目的や内容に応じて、ふさわしい図解表現を選び、活用していこう。

□□□□ (表の例)

□□□□□ 5月の読書冊数
□□□□ 2年1組30人
□□上段が読書冊数，下段が人数である。

0 □□ 1 □□ 2 □□ 3 □□ 4 □□ 5以上
5 □□ 4 □□ 8 □□ 7 □□ 2 □□ 4

□□□□ グラフ

□□ 1. 比較や傾向を表したいとき □□□□□ 棒グラフ
□□ 2. 割合を表したいとき □□□□□ 帯グラフ (数値の大小や全体との割合を四角形の面積で表したもの)，円グラフ (円を使って，割合がひと目でわかるようにしたもの。特定の内容を強調して表すのに向いている)
□□ 3. 時間の変化に応じた内容を表したいとき □□□□□ 折れ線グラフ
□□ 4. 墨字では複数の内容を同時に表したいとき □□□□□ 複合グラフ

資料37 漢字1 形に注目して漢字を考える (3年 p.33)

2 次の各組の「 」で示した部分は，形が似ているうえに音も同じ漢字である。熟語の意味を参考にして，それぞれの漢字を使った他の熟語を考えよう。

(1)

- a 遠「慮」(控えめにすること)
- b 「虜」囚 (とれわれた人)

(2)

- a 「陪」席 (目上の人と同席すること・陪席裁判官の略)
- b 「賠」償 (他人や他国に与えた損害を償うこと)

(3)

- a 画「伯」(すぐれた画家)
- b 「拍」手 (手をたたき，ほめること)

(4)

- a 「尉」官 (旧軍隊の階級)
- b 「慰」労 (労をねぎらうこと)

3 次の各組の「 」で示した部分は，組み立てのうえで共通する部分をもつ漢字であるが，すべて同じ音で読むとは限らない。それぞれの熟語の意味を考えてみよう。

(1) 「叔」父 静「寂」 「淑」女 「督」促

(2) 潜水「艦」 芸術「鑑」賞 川の氾「濫」 一「覽」表

(3) 農「閑」期 「閣」僚 一週「間」

資料38 漢字2 異なる意味をもつ漢字 (3年 p.49)

2 次の熟語の「 」で示した部分は同じ漢字である。はじめの漢字は，後の二つの漢字のうち，どちらの意味で使われているかを考えてみよう。

(1) 「露」骨 □□□□ □吐「露」 □・□夜「露」

(2) 系「譜」 □□□□ □「譜」面 □・□年「譜」

(3) 碁「石」 □□□□ □「石」高 □・□小「石」

- 腕時計を修理するために□□□□する。
- 4. (絶大・巨大・遠大)
- な岩が見える。
- な計画を立てる。
- 先輩から□□□□な支援を賜る。
- 5. (作製・鑄造・製造)
- 貨幣を□□□□する。
- 工場でパンの□□□□行程を見学する。
- 部品を組み立てて模型飛行機を□□□□する。
- 6. (動転・仰天・驚嘆)
- 後ろから突然驚かされて□□□□する。
- 彼の勤勉さには□□□□する。
- 気が□□□□してなにも覚えていない。
- 7. (返事・応答・回答)
- 手紙の□□□□は三日以内に出して欲しい。
- アンケートの□□□□を集計する。
- 無線の□□□□がとどえる。
- 8. (認可・承認・許可)
- 病院の□□□□を得て、一時帰宅する。
- 政府はその施設の使用を□□□□している。
- 法案修正のために国会の□□□□を求める。

5 . . . わかりやすい。次の「 」で示した言葉について辞典で意味を調べ、易しい言葉に置きかえよう。また、(1)～(5)の言葉を使って別の短文を作ってみよう。

[例] 適切な「措置」をとる。

措置→処置・取扱い

- (1) 「衷心から」感謝する。
- (2) パンフレットを「頒布」する。
- (3) 士気を「鼓舞する」。
- (4) 「殊勲」賞を受ける。
- (5) 「懇意」な間柄である。

資料41 漢字6 漢字の総まとめ(3年 p.192)

1 次の各組の「 」で示した漢字は、()内に示した部首を共にもっている。それぞれの意味を漢和辞典などで調べてみよう。

- (1) 「扶」養□□「控」え室□□(てへん)
- (2) 「今」回□□「俊」敏□□(ひと)
- (3) 「氷」解□□海「溝」□□(みず)
- (4) 「怒」号□□「悦」楽□□(こころ)

2 次の各組の「 」で示した語には、形が共通した部分をもつ漢字が使われている。それぞれの語の意味を調べてみよう。

- (1)
 - 雑誌に「掲載」された生地を備忘録に記しておく。
 - 彼女は「茶褐色」のセーターを着ている。
- (2)
 - わたしの唯一の「娯楽」は将棋だ。
 - 事実の「誤認」が起り得るので、注意したい。
- (3)
 - 「孤立」無援の状況だ。
 - 矢が「弧」を描いて飛ぶ。

- (4) みその「醸造」方法について調べる。
お年寄りに席を「譲る」。
- (5) 県内の「某所」で、秘密の会合がもたれた。
「無謀」な挑戦は、失敗に終わった。
- (6) 日本「記録」を更新した。
「新緑」の美しい季節になった。

3 次の「 」で示した部分に当てはまるのは（ ）のうちのどちらだろう。

- (1) 壁に絵を「カける」。(ふとんを「カける」・橋を「カける」)
- (2) 運動したのでのどが「カワ」いた。(「カン」そう・「カッ」すい)
- (3) 台風「ソナ」える。(ジュン「ビ」・「キョウ」キュウ)
- (4) 人生の岐路に「タ」つ。(「ダン」ゼツ・コ「リツ」)
- (5) 自由な生活を「キョージュ」する。(教えること・受け入れること)
- (6) 熱帯魚の「サンラン」を観察する。(散らばること・卵を産むこと)
- (7) 蛍の生態に「カンシン」をもつ。(うれしいと思う心・興味をもって注意を払うこと)
- (8) 生命の安全を「ホショー」する。(障害のないように保つこと・損害などを補うこと)

4 次の各組の「 」で示した部分は同じ漢字である。意味を調べよう。

- (1) ピアノを「弾」く。
「弾」丸を避ける。
ボールが「弾」む。
- (2) これは、「並」の品ではない。
電車とバスが「並」行して走っている。
- (3) 「優」秀な成績を収める。
わたしの兄はとても優しい。
- (4) 馬の「背」に乗る。
彼の「背」信行為を弾劾する。
- (5) 彼には禅についての「著」作がある。
今年になり、選手たちの実力は「著」しく伸びた。
- (6) 未来を「占」う。
重要な位置を「占」める。

資料42 漢字に親しもう (3年 p.207~208)

1 次の「 」で示した部分について、意味を調べてみよう。

1. 落ち込んでばかりいないで、「ゼンゴサク」を練らなければならない。
2. 「セイイ」をもって話すことが、コミュニケーションの基本だ。
3. 「キリツ」正しい生活を送る。
4. この図書館の「ゾウショ」は、約20万冊だ。
5. そのことは、会社の「ソンボウ」に関わる問題だ。
6. あ的那个人は、「ウラオモテノナイ」正直な人だ。

7. 手袋を片方、「フンシツ」してしまった。
8. こんなことになってしまって、「アナガアツタラハイリタイ」気分だ。
9. 新たに「カブシキガイシャ」を設立した。
10. 話題の新製品をテレビのコマーシャルで「センデン」していた。
11. この海は、潮の「カンマン」の差が大きいことで知られている。
12. 「キョウリ」から、たくさんのみかんが送られてきた。
13. 今年は、今までになく「ダイキボな」学園祭になりそうだ。
14. 眠っている子どもが目を覚まさないように、そっとドアを「カイヘイ」して部屋を出た。
15. この布は水分をよく「キュウシュウ」する。
16. 弟がけがをしたので、できるかぎりの「オウキュウショチ」を施す。
17. 「ショウライントホッスレバマズウマライヨ」。
18. 国会で「ヨトウ」と野党が対立している。
19. コーヒーに「トウブン」とミルクを入れる。
20. 人により答えが異なっても「イギ」を唱えるな。

2 次の1.～9.の文の中で、「 」で示した部分の漢字を用いて別の熟語を作ろう。

1. 年賀「ジョウ」
2. 「キョウ」味本位
3. 入学「シ」験
4. 「セン」門知識
5. 質「ギ」応答
6. 公「シュウ」衛生
7. 賛「ピ」両論
8. 水「ジョウ」気
9. 「シン」葉樹林

3 次の1.～11.の文の中で、「 」で示した部分は、後の()内の熟語について「 」で示した漢字と形が似ている。それぞれの漢字の意味を調べよう。また後の熟語を用いて短文を作ってみよう。

1. 妹の「タン」生日にプレゼントを贈る。(「エン」長)
2. 全力で「コン」難に立ち向かう。(「イン」果応報)
3. 長野県の県「チョウ」所在地は、長野市である。(一「チョウ」目)
4. 雪の多い日には、「ジョ」雪車が出動する。(「ジョジョ」に)
5. 三十一を四「シャ」五入すると、三十になる。(寄宿「シャ」)
6. 「エン」道は駅伝を見る人であふれていた。(入「ヨク」)
7. 台風で野菜の「キョウ」給が不足している。(「キョウ」通語)
8. 近所のお寺に参「パイ」する。(「ハイ」除)
9. 「ケイ」統的に説明する。(関「ケイ」者)
10. 本屋で週刊「シ」を買う。(「シ」願者)
11. その決定に対しては、「ヒ」判的な意見が多い。(「ヒ」例する)